

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センター
静岡県畜産経営環境技術センター

菊川市西方2780

電 話 0537-35-2291

FAX 0537-35-2294

目 次

事務事業の概要

1 概要	1
2 事業の目的、計画、実績（成果）及び評価、改善	4
（1）総務事務	4
（2）試験研究の概要	5
（3）試験研究及び関連事業の実施状況	10
（4）試験研究成果一覧表	19
（5）研究成果の広報・普及	32
（6）その他の研修等普及指導・広報活動・普及活動	34
3 事業の根拠法令調	35
職員調	36
職員の年齢調	41
健康管理	42
職員配置調	43
歳入予算執行状況調	44
預金調	48
郵券等受払調	49
歳出予算執行状況調	50
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	55
委託料に関する調	58
負担金支出調	64
建築工事調	66
公有財産調	68
借地借家等調	69
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	70
行政財産貸付・使用許可調	71
普通財産・借受財産等貸付調	71
職員公舎管理状況調	72
備品・図書調	73
主要備品調	77
動物管理状況調	78
生産物受払調	79

事務事業の概要

1 概 要

(1) 沿 革

(畜産技術研究所)

- 昭和 4 年 5 月 乳牛の改良増殖機関として、沼津市三枚橋に県沼津種畜場を創設
- 昭和 25 年 7 月 御殿場市神山の農林省種羊場駿河支場（昭和 15 年設立）を本県が譲り受け、牛、
綿羊、豚、鶏の総合種畜場として発足
- 昭和 37 年 4 月 総合種畜場を種畜毎に分離改組。種牛部門は酪農試験場として、種畜場跡地に新
設するとともに、富士宮市内野の現在地に西富士支場を開設
- 昭和 40 年 4 月 西富士支場を育成試験場に改称、育成牛放牧、凍結精液生産・配布業務と草地、
放牧、後代検定等関連研究を推進。畜産講習所は酪農専門研修所に改組
- 昭和 47 年 7 月 酪農試験場と育成試験場を統合して畜産試験場と改称。管理、乳牛、肉牛、経営
の 4 部制とし、高度な試験研究推進のため諸施設整備の拡充を図り、牛関連研究
の試験場として発足
酪農専門研修所は畜産専門研修所と改称
- 平成 3 年 10 月 畜産試験場整備事業(昭63~平5)により管理研究棟完成、研究・事務関係移転
- 平成 11 年 4 月 農林短期大学校畜産分校は、農林大学校畜産分校に再編
- 平成 19 年 4 月 組織再編により畜産試験場、中小家畜試験場を統合し、畜産技術研究所として
発足。中小家畜試験場を前身として、菊川市に中小家畜研究センターを設立
- 令和 3 年 3 月 農林大学校畜産分校は、農林環境専門職大学への移行により廃止

(中小家畜研究センター)

- 昭和 4 年 3 月 県浜名種畜場（浜名郡中瀬村、現浜松市浜名区）設置、主として種豚、種鶏に関
する試験研究を開始
- 昭和 25 年 7 月 機構改革により、浜名種畜場を県種畜場浜名分場に改組
- 昭和 37 年 4 月 養豚部門を養豚試験場（現浜松市浜名区）、養鶏部門を養鶏試験場（掛川市下垂
木）として、それぞれ新設
- 昭和 62 年 4 月 小笠郡菊川町西方（現菊川市西方）に両場を移転統合し、県中小家畜試験場とし
て発足。併せて、県立農林短期大学校中小家畜分校（養豚科、養鶏科）を設置。
また、養豚及び養鶏経営の合理化、並びに経営環境の保全を図るため、畜産経営
環境技術センターを新設
- 平成 11 年 4 月 農林短期大学校中小家畜分校は、農林大学校中小家畜分校に再編
- 平成 19 年 4 月 組織改正により、畜産試験場と統合し、畜産技術研究所中小家畜研究センターに
改組
- 令和 3 年 3 月 農林大学校中小家畜分校は、農林環境専門職大学への移行により廃止

(2) 静岡県の畜産の概要

本県の畜産は、優れた生産技術と自然条件や交通立地条件等を活かし、県民に新鮮で安全な畜産物を安定的に供給している。令和5年の本県農業産出額2,245億円(前年比105.3%)に占める畜産の額は637億円(前年比117.3%)で、その割合は28.4%と本県農業の牽引役となっている。

近年、県内ではクラスター事業を活用した生産性向上や規模拡大の取組が活発で、大規模畜産企業体の参入もあり、従来の家族経営から法人経営へ変化しつつある。一方で、悪臭に代表される苦情発生件数は横ばい状態にある。また、世界的な穀物需給と為替変動等により、飼料を始めとする生産資材価格は高止まり状況である。加えて、TPPやEPA等の貿易協定の合意による国際化に対応できる生産基盤の強化が急務となっている。このように、変化の激しい時代において、生産者からは安心して経営を継続できる技術やビジネスチャンスを見出すための新しい技術が求められている。

このため、本県では「静岡県総合計画(静岡県の新ビジョン後期アクションプラン)」の分野別計画である「静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例」に基づく「静岡県食と農の基本計画(2022～2025)」に加え、「静岡県酪農・肉用牛生産近代化計画」、「静岡県の家畜及び鶏の改良増殖計画」及び「しずおか食の安全推進のためのアクションプラン」等に基づき、消費者との連携を強め、県民に新鮮で安全な畜産物を安定的に供給することを基本として、畜産の生産基盤の充実と経営体質の強化を図ることとしている。

表1 本県畜産物の産出額

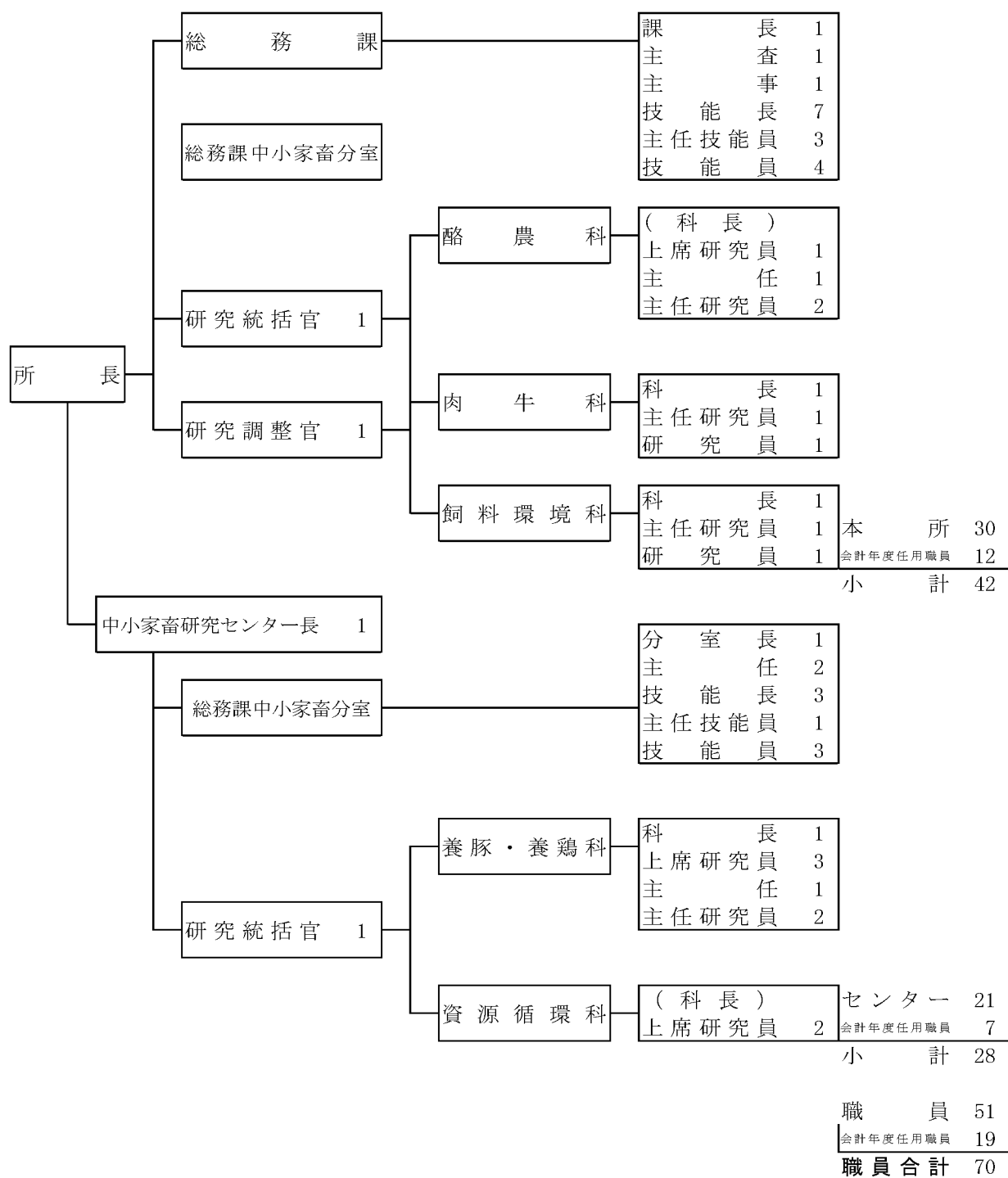
(単位：百万円、%)

年	乳用牛	肉用牛	豚	鶏	その他 畜産物	畜産計 (A)	農業合計 (B)	畜産の シェア (A/B)
S50	10,837	5,274	30,145	30,154	337	76,747	278,655	27.5
60	15,915	11,198	24,030	28,250	3,093	82,486	342,368	24.1
H10	12,590	5,960	10,080	14,700	2,550	45,880	289,070	15.9
20	10,400	7,500	7,400	11,900	1,700	38,900	228,100	17.1
21	10,700	6,900	5,800	11,500	2,700	37,500	208,600	18.0
22	10,400	7,600	6,000	11,200	2,300	37,500	212,300	17.7
23	9,500	7,300	6,200	13,500	2,600	38,900	212,700	18.3
24	9,900	8,000	6,400	14,600	2,500	41,300	211,400	19.5
25	10,000	7,700	6,600	17,200	3,600	45,100	213,800	21.1
26	10,000	9,000	8,200	19,700	3,300	50,200	215,400	23.3
27	11,000	8,800	7,400	22,000	3,100	52,200	220,400	23.7
28	11,500	8,200	6,300	19,900	3,200	49,000	226,600	21.6
29	11,400	8,100	6,600	19,200	3,200	48,600	226,300	21.5
30	11,300	7,900	6,200	17,700	3,300	46,400	212,000	21.9
R1	11,700	7,600	7,100	16,500	3,200	46,100	197,900	23.3
R2	11,500	7,300	6,800	16,200	3,300	45,100	188,700	23.9
R3	10,800	7,700	5,600	27,100	3,200	54,400	208,400	26.1
R4	10,300	8,500	6,400	25,400	3,600	54,300	213,200	25.5
R5	11,100	9,000	6,200	33,400	3,900	63,700	224,500	28.4

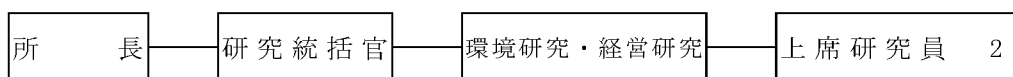
四捨五入のため表示額と合計額が一致しないことがある

資料：農林水産省生産農業所得統計

(3) 組織図
ア 畜産技術研究所



イ 畜産経営環境技術センター (兼務職員 4人)



※ 所長以下4人全員が中小家畜研究センターと兼務している。

2 事業の目的、計画、実績（成果）及び評価、改善

（１）総務事務

ア 組織及び人事管理

畜産技術研究所の組織は本所、中小家畜研究センターで構成され、令和 7 年 5 月 31 日現在の職員数は本所 42 名（会計年度任用職員 12 名を含む。）、中小家畜研究センター 28 名（会計年度任用職員 7 名を含む。）である。

職員の配置及び事務分担については、職員の経験・能力、各部署の業務量等を考慮し、適材適所の配置・分担に努めている。

イ 予算経理及び財産管理

予算執行に当たっては、適正、迅速な執行に努めている。また、物品・財産管理についても適切な維持管理に努めている。

ウ 綱紀の保持と交通事故防止

綱紀の保持と交通事故防止について、毎月 1 回開催する所内連絡会を通じて職員への周知徹底を図っている。

なお、当所は公共交通機関の便が悪いため、本所、中小家畜研究センター共に自家用車での通勤が大半で、加えて業務の性質上、出張は公用車によるものが多い状況にある。

このため、所内連絡会、安全運転管理しずおか（静岡県安全管理協会発行）の所内供覧等を通じて安全運転の周知徹底を図るとともに、「セーフティドライブキャンペーン～チャレンジラリー92～」への参加や「コンプライアンス意見交換会」を通じ、職員一人ひとりの交通安全意識の向上に努めている。

エ 健康管理

職員の健康管理については、定期健康診断、人間ドック、成人病検診等の受診はもとより、情報機器作業従事者検診、ストレスチェック検査についても積極的に受検するよう指導している。

なお、受診後においても健康管理区分に基づく事後指導に参加させ、職員が自ら健康管理に努めるよう指導している。

また、日頃から積極的にコミュニケーションが図れる雰囲気づくりと気軽に何でも相談できる職場環境づくりに努めている。

オ 職員研修

各種研修会・講習会、学会等に積極的に参加することにより、職員の資質、知識・技術の向上を図っている。

[評価・改善]

・交通事故防止

監査対象期間内に、公務中の交通事故は発生しなかった。

無事故・無違反を目指し、所内連絡会や安全運転管理しずおかの所内供覧、「チャレンジラリー 92」への参加などを通じて、職員の交通安全に対する一層の意識の醸成に努めていく。

・労働安全衛生

監査対象期間内に研究員、技能員及び会計年度任用職員による公務災害が3件発生した。

令和4年度に作成した「現場危険作業リスト」を見直して令和6年1月に更新するとともに、新たに総務課の作業を追加して全職員に配布し情報を共有して、職場全体で安全作業に努めている。また、危険事項(箇所や作業)についての意見交換会を実施するとともに、作業安全職場研修会を開催(6年10月)して、安全意識の維持高揚を図った。また、災害ゼロ達成のため、今後もヒヤリハット事例の収集や周知、始業前の安全点検の徹底、作業安全講習の受講、定期職場巡視等、一層の安全の確保に努めていく。

また、時間外勤務の縮減と休暇取得の促進を図り、職員の健康管理に努めた。

(2) 試験研究の概要

ア 試験研究の重点方向

畜産技術研究所では、「静岡県食と農の基本計画(2022～2025)」の目標達成に向け、「静岡県の試験研究機関に係る基本戦略」に基づき、以下の3つを2025年度までの研究開発の重点方向とする。

- ① 省力化、生産性向上を実現するスマート畜産の推進
- ② 脱炭素化に貢献する環境制御と畜産経営を両立する持続可能な畜産業の推進
- ③ 新たな需要を生み出す新産業創出と畜産物のブランド力向上

イ 試験研究推進体制

一般試験研究課題の設定においては、農協、生産者団体、行政機関等から提出される「研究要望カード」により、常時、研究要望を受付けている。寄せられた研究要望は、地域での重要性、関連技術等を所内で検討した上で、課題化が必要と判断したものについて研究計画案を作成し、所内研究推進会議(研究アドバイザーの指導・評価)、試験研究機関外部評価委員会(有識者指導・評価)、試験研究調整会議の各段階の承認を経て試験研究課題とすることとしている。また、実施中及び終了後においても、前述の評価を受ける等、研究の効率化を目的としたPDCAサイクルの実施を徹底している。

新成長戦略研究課題については、政策課題の技術的解決を目的として、畜産振興課等の本庁各課とともに研究課題を設定し、試験研究調整会議における選抜を経て試験研究課題化するとともに、前述同様のPDCAサイクルの実施により目標管理しながら県民の付託に応えている。

ウ 研究推進会議の開催状況

所内検討のための研究推進会議を開催し、計画・実施する全ての課題の検討を行う。適正な検討を行うため、畜産技術研究所長は畜産有識者に意見を求め、研究の適正化を図っている。

<推進会議開催状況>

(令和6年度)

区 分	開催日	開催内 容	指 導 者
第1回研究推進会議	7月4日	令和7年度に開始する新規試験研究課題(一般研究課題)の検討。	大学教授、 農林事務所農業振興部長
第2回研究推進会議	1月17日	令和6年度実施課題のうち、次年度継続課題の中間評価と今年度終了課題の事後評価、令和5年度に終了し1年経過した課題の追跡調査を実施。	大学教授、 農林事務所農業振興部長

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

区 分	開催日	開催内 容	指 導 者
第1回研究推進会議	7月10日 (予定)	令和8年度に開始する新規試験研究課題(一般研究課題)の検討。	大学教授、 農林事務所農業振興部長
第2回研究推進会議	1月下旬	令和6年度実施課題のうち、次年度継続課題の中間評価と終了課題の事後評価、令和5年度に終了し1年経過した課題の追跡調査を実施。	大学教授、 農林事務所農業振興部長

エ 試験研究要望課題等の処理状況

(令和6年度)

区 分	研究要望カード数			要望課題の処理状況				
	県関係からの要望	農林業団体・生産者等からの要望	計	採 択		不 採 択		
				新規課題設定	既存課題対応	実態把握	現地指導情報提供	その他 ^{注1}
乳 牛	0	0	0	0	0	0	0	0
肉 牛	0	0	0	0	0	0	0	0
豚	0	1	1	1	0	0	0	0
鶏	0	1	1	0	0	0	1	0
飼 料	1	1	2	1	0	0	1	0
環 境	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 ^{注2}	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	3	4	2	0	0	2	0

注 1) その他は、「現状では課題化が困難」、「事業的業務」、「その他」に該当する要望事項

2) 区分の欄のその他は、複数の畜種を対象にした要望事項

オ 試験研究の重点方向目標別研究課題数

(令和6年度)

研究開発の重点方向	本 所	センター
省力化、生産性向上を実現するスマート畜産の推進	2(4)	2(4)
脱炭素化に貢献する環境制御と畜産経営を両立する持続可能な畜産業の推進	10(14)	3(3)
新たな需要を生み出す新産業創出と畜産物のブランド力向上	2(5)	6(12)
計	14(25)	10(19)

年度期首の課題数	12	8
当該年度の完了課題数	4	2
翌年度新規課題数（評価会提出課題数）	1	1

うち新成長戦略研究課題 本所 1 課題、中小 2 課題

(令和7年度)

研究開発の重点方向	本 所	センター
省力化、生産性向上を実現するスマート畜産の推進	2(4)	1(3)
脱炭素化に貢献する環境制御と畜産経営を両立する持続可能な畜産業の推進	7(13)	2(4)
新たな需要を生み出す新産業創出と畜産物のブランド力向上	2(5)	6(10)
計	11(22)	9(17)

年度期首の課題数	11	9
当該年度の完了課題数	4	4
翌年度新規課題数（評価会提出課題数）	3	1

うち新成長戦略研究課題 本所 1 課題、中小 2 課題

() は当該年度実施細目課題数

カ 試験研究の評価

産業イノベーション推進課が開催する外部評価委員会において、研究課題の計画の妥当性、進捗状況及び研究の成果等について評価を受ける。

<評価の種類>

- ・事前評価：翌年度の新規研究課題の内容を外部評価委員が評価する。
- ・中間評価：研究課題の進捗状況や研究継続の必要性等を研究期間の中間年度に評価する。
- ・事後評価：研究期間が終了する研究課題の目標達成度や成果等を評価する。
- ・追跡評価：一般試験研究については終了後1年を、新成長戦略研究については終了後3年をそれぞれ経過した研究課題の成果波及効果等を評価する。

○一般試験研究課題

(令和6年度)

区 分	開催日	評価の種類	対象課題数	内訳
第1回評価委員会※	7月26日	事前評価	2	・本所1、中小1
試験研究調整会議 畜産分野会	9月24日	事前評価	2	・本所1、中小1
第2回評価委員会※	1月24日	中間評価 事後評価 追跡評価	12	・中間7、事後2、追跡2

※ 外部評価委員15名のうち3名による評価

○新成長戦略研究課題

(令和6年度)

区 分	開催日	評価の種類	対象課題数	評価結果
政策課題指定枠 部長協議	4月23日	一次審査	1	R6 開始予定課題の審査
政策課題指定枠 部長協議	5月31日	二次審査	1	R6 開始予定課題の審査
第1回研究調整会議	7月31日	事前評価	0	R7 開始予定課題の一次選考
事前評価会※ ¹	9月9日	事前評価	0	R7 開始予定課題の外部評価
第2回研究調整会議	10月28日	事前評価	0	R7 開始課題の決定
現地指導※ ²	10月25日	助言・指導	2	R6 実施課題 本所1、中小1
追跡報告会※ ¹	12月16日	助言・指導	1	R2 終了課題の成果普及状況 中小2
政策課題指定枠部長報告 部長報告	1月30日	評価	1	中小1
中間評価会※ ¹	2月17日	中間評価	2	本所1、中小1

※¹ 外部評価委員15名による評価、※² 外部評価委員2名による助言・指導

(令和7年度)

区 分	開催日	評価の種類	対象課題数	評価結果
政策課題指定枠 部長協議	4月23日	一次審査	0	R7 開始予定課題の一次審査
政策課題指定枠 二次選考	5月29日	二次選考	0	R7 開始予定課題の二次審査

[評価・改善]

一般研究課題立案にあたっては、生産者・消費者・流通事業者等から広く意見・要望を聴取し、県民生活向上に貢献する内容となるよう注力していく。新成長戦略研究課題立案にあたっては、現状の政策的課題等を解決するために、事業課と調整の上協力して取り組む。

(3) 試験研究及び関連事業の実施状況

ア 酪農科

(ア) 研究方針と研究課題

<研究方針>

当所の持つ乳牛に関する知見やデータを活用し、脱炭素化、疾病の予防と対策、低コスト化、生産性向上に向けた技術開発に取り組む。

<研究課題> (() 内は実施年度、○印は重点研究課題)

- a 乳牛へのコーヒー豆かす給餌による乳質改善効果の検討 (R5-R7)
- ⑥ 温室効果ガス (GHG) の放出を抑制する家畜管理技術の開発 (R5-R7)
- c 超音波画像診断装置による難治性乳房炎処置基準の策定 (R6-R8)
- d 説明可能な AI を用いた牛群中での乳牛の序列を決定する要素の解明 (R6-R8)

[評価・改善]

企業や大学等研究機関との共同研究や研究協力を通じて、研究の加速化や成果の実用化を推進している。研究課題 a については、令和 5、6 年度に当所で得られたデータ等を活用し、野外農場での実証試験を進める。また、研究課題 b については、所内の各科と連携を図りながら進める。c については画像の AI 解析の可能性について検討を行う。d については富士工業技術支援センター及び東京電機大学と連携を図りながら進める。

(イ) 関連事業等

a 家畜改良増殖対策事業(牛群検定普及定着化)

乳用牛群検定の普及率向上及び定着化を図るため、(一社)家畜改良事業団のデータを利用して、検定成績の分析を行い、検定実施農家に対して指導を実施している。

[評価・改善]

検定実施農家の飼養牛の乳量、乳成分、繁殖成績から、疾病の有無や飼養管理の問題点を推定し、必要に応じて改善方法の指導を行っている。令和 6 年度は 1 農協を通じて酪農家 6 戸の給与飼料に対する指導を行った。その結果、乳成分が安定するようになった。

b 試験牛飼養事業(乳牛) (R6)42,120 千円 (R7)41,457 千円

着実な試験研究を推進するため、健康・衛生管理を徹底し、試験研究用乳牛の飼養を行なっている。

[評価・改善]

試験研究用乳牛を供試して、令和 6 年度に酪農科で実施した試験研究 4 課題に必要な健康管理データ、疾病データ及び環境データ等を取得することができ、試験研究の推進に貢献した。

イ 肉牛科

(ア) 研究方針と研究課題

<研究方針>

遺伝子解析技術および受精卵移植技術等を活用し、本県の持つ優れた肉牛生産技術の一層の発展を支援する。

<研究課題> (() 内は実施年度、○印は重点研究課題)

- ① 採卵成績向上に向けた黒毛和種繁殖雌牛の新たな評価指標及び飼養管理方法の確立(R4-R8)
- b 温室効果ガス(GHG)の放出を抑制する家畜管理技術の開発(R5-R7)
- c 定時人工授精技術の改良による受胎率の向上と授精間隔の短縮(R6-R8)

[評価・改善]

研究課題については概ね計画に沿った取組ができた。研究課題bについては県立農林環境専門職大学と協力し、和牛受精卵供給事業を下支えする技術となるよう研究を行っている。令和6年度も同様に研究を推進する計画である。

(イ) 関連事業等

- a 家畜改良推進事業(遺伝的能力向上対策) (R6)119千円 (R7)119千円

県内で飼養される肉用の繁殖用雌牛(黒毛和種)の遺伝的改良を進めるために、市場に出荷された肥育牛の枝肉データや血統データを収集・分析し、血縁関係のある繁殖牛の遺伝的能力評価指標である育種価を求め、それらを基にした改良情報等を農家に提供している。

令和6年度は、県内から出荷された肥育牛30,527頭の情報をもとに、県内で現在供用されている繁殖用雌牛242頭の育種価を算出し、それらを飼養する33戸に対して改良情報等を提供した。

[評価・改善]

個別データをもとに育種価を算出し、農家指導に利用している。平成20年度から、肥育農家の同意を得て肉用牛枝肉情報全国データベースを活用し、育種価評価を実施しており、育種価判明頭数は順調に増加している。今後も引き続き育種価評価を継続し、県内で飼養される肉用の繁殖雌牛の遺伝的改良を進めていく。

- b 受託放牧育成事業 (R6)5,921千円 (R7)5,921千円

家畜共同育成事業において県内酪農場から天城放牧場(指定管理者:(公社)静岡県畜産協会)へ預託されている乳用種育成牛の一部を再受託し、放牧や繁殖関係の研究を行っている。

令和6年度は、4月上旬から放牧を開始し、月2回の衛生検査を行い、発育・健康状態の確認及び繁殖管理を実施した。受託した育成牛41頭のうち、34頭が人工授精で受胎した。3回の人工授精を行い不受胎であった育成牛3頭は不受胎を確認後に天城牧場に移動して自然交配を実施した。また、2回の人工授精の後に不受胎であった1頭は所有者(酪農家)の要望により返却した。3頭は酪農家の希望により人工授精前に退牧となった。

○放牧育成頭数

(令和6年度)

	繰越	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 牧	38	0	0	0	0	9	8	0	13	0	4	0	7	※79
退 牧	-	0	2	1	4	3	13	9	4	2	1	0	0	39
在場頭数	-	38	36	35	31	37	32	23	32	30	33	33	40	40

※令和5年度からの繰越頭数 38 頭を含む (令和6年度新規入牧 41 頭)

○放牧育成頭数

(令和7年5月31日現在)

	繰越	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 牧	40	0	0											※40
退 牧	-	0	1											1
在場頭数	-	40	39											39

※令和6年度からの繰越頭数 40 頭 (令和7年度新規入牧 なし)

[評価・改善]

発育について、令和6年度の入牧時平均体重は286.4kgで、令和5年度(293.2kg)より6.8kg少なかったが、平均増体日量が令和5年度を上回ったことで、退牧時平均体重は542.4kgで令和5年度(531.7kg)より10.7kg増加した。今後も引き続き増体の良い飼養管理を行う。

令和6年度の平均受託期間は262.6日で、令和5年度(257.9日)より4.7日延長した。これは一部の受託牛で、乳房腫の発症に伴う治療により退牧に遅れが生じたためであると考えられる。令和7年度は乳房腫の原因となる吸血昆虫の対策を実施する。

繁殖成績について、令和6年度は研究課題cを実施し、人工授精により延べ35頭が受胎し、受胎率は61.4%で、令和5年度(52.1%)より9.3%増加した。令和7年度は血液検査や令和6年度までとは異なるホルモン剤の使用により、より良い繁殖技術の開発を図る。

c 家畜改良推進事業(家畜人工授精師養成講習会)

県立農林環境専門職大学学生及び県内畜産業従事者等を対象に、家畜改良増殖法に基づく家畜人工授精師(牛・豚)の養成講習会を下表のとおり行った。

年度	区 分	受講者	合格者
R6	家畜人工授精師(牛・豚)	9人	9人

(注) 令和7年度は前期講習を令和7年7～8月、後期講習を令和7年8～9月に実施予定

[評価・改善]

令和6年度の受講者は、同専門職大学学生9人(牛:5人、豚:4人)全員が合格し、農業後継者育成に貢献した。令和7年度は同専門職大学学生と畜産業従事者等を対象に講習会を開催する予定である。

d 和牛受精卵供給事業

(R6)5,897 千円 (R7)5,848 千円

県産和牛の安定生産を図るために、所内で飼養している黒毛和種繁殖牛から受精卵を採卵し、遺伝的能力の高い和牛受精卵について、令和2年度から静岡県和牛改良推進協議会を通じて令和2年度から県内酪農家に供給している。令和6年度の受精卵採卵実績は、黒毛和種繁殖牛延べ36頭から180個(※)の受精卵を採取し凍結保存した。同協議会を通じて118個(過年度採卵分を含む)を県内の酪農家に供給した。

※令和6年度に採卵した204個の受精卵のうち、低級な卵を除いた180個を和牛受精卵供給事業の対象とした。

[評価・改善]

令和7年度も100個以上を供給する予定で、引き続き、乳牛を利用して優良和牛子牛の増産を図り、県内黒毛和種の品質向上と肥育素牛の安定供給を支援する。

e 試験牛飼養事業(肉牛)

(R6)10,386 千円 (R7)14,020 千円

試験研究に利用する肉用牛の飼養管理・生産技術の実証を行う。

[評価・改善]

試験課題aにおいて、繁殖牛から効率的に受精卵採取するための要因を解析し、遺伝的要因との関連性が認められた。また、研究課題bにおいて、肥育牛へ茶殻を給与することにより、GHG削減を調査しており、データを蓄積中である。令和7年度は引き続き調査を進め、削減効果を検証する予定である。

ウ 飼料環境科

(ア) 研究方針と研究課題

＜研究方針＞

大家畜経営を行う上で重要となる自給飼料生産技術や家畜排せつ物の処理技術について、当所の持つ広大な草地を活用した技術開発に取り組む。

＜研究課題＞（()内は実施年度○印は重点研究課題）

- a 農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発(R元-R5)
- b 牧草地・飼料畑除草剤実用化試験(R5)
- ◎ 子実用とうもろこし(国産濃厚飼料)の安定多収生産技術の開発(R4-R6)
- d 田子の浦港しゅんせつ土由来脱水处理土の農業利用に関する検討(R4-R6)
- e 越夏性に優れるライグラス新品種を用いた省力的な草地の高位安定生産技術の開発(R4-R8)
- ④ 温室効果ガス(GHG)の放出を抑制する家畜管理技術の開発(R5-R7)
- g 静岡県におけるシバ型草地の早期造成技術の開発(R5-R7)
- h 牧草飼料作物の品種選定に関する試験(R5-R7)
- i 飼料作物奨励品種選抜試験(R5-R7)
- j 牧草地・飼料畑除草剤実用化試験(R6)

[評価・改善]

研究課題については概ね計画に沿った取組ができた。研究課題c「子実用とうもろこし（国産濃厚飼料）の安定多収生産技術の開発（R4-R6）」では、高騰する飼料の自給率向上のため、国内の研究機関と共同で子実用とうもろこしの生産・流通に向けた研究に取り組んでいる。また、研究課題f「温室効果ガス(GHG)の放出を抑制する家畜管理技術の開発」では、堆肥化处理におけるGHG削減と自給飼料増産による輸入飼料由来のGHG削減につながる作型の開発に取り組んでいる。今後も研究の目標達成と成果の普及・活用に向け、生産現場に向けたアピールを行う。

(イ) 関連事業等

- a 飼料生産推進事業(飼料自給率向上推進) (R6)57 千円 (R7)49 千円
 大家畜経営の基礎となる自給粗飼料の効率的生産・調製・貯蔵及び利用技術の普及を行うとともに飼料分析事業を推進し、農家における飼料給与に関する技術指導を行った。

○ 自給飼料分析指導部門での粗飼料分析件数 (令和7年5月31日現在) (単位: 件)

粗飼料の種類	令和6年度	令和7年度	備 考
コーンサイレージ	12	0	スーダングラスを含む
ソルガムサイレージ	0	0	
グラスサイレージ	4	2	
牧 乾 草	2	0	
稲 W C S	3	0	
合 計	21	2	

[評価・改善]

当所は自給飼料分析センターとして位置づけられており、自給飼料を生産・利用する畜産農家の飼料の評価及び指導を行って農家の要望に対応するとともに、農林事務所が実施する普及課題の推進に協力した。令和6年度の分析件数は、農林事務所の普及課題に関する分析が減少したことと、静岡空港の刈草の分析がなくなったため令和5年度（46件）より減少した。

- b 試験牛自給飼料生産事業 (R6)12,835 千円 (R7)12,536 千円
 所内試験牛及び受託放牧牛の自給粗飼料生産・調製を行い、粗飼料の確保を図るとともに、自給粗飼料生産の実証展示を行った。

○ 自給粗飼料生産量 (令和7年5月31日現在) (単位: t)

区分 利用形態	令和6年度		R5年度 対比(%)	令和7年度		備 考
	乾物換算量	生産量		乾物換算量	生産量	
放 牧 生 草	38	189	109	11	54	4月から放牧
ロールサイレージ(コーン)	82	201	88	—	—	
ロールサイレージ(グラス)	321	706	110	99	240	
合 計	441	1,096	101	110	294	

※生産量ベース

[評価・改善]

当所産粗飼料の自給率は、例年概ね 80%である。令和 6 年度の自給粗飼料生産量は、令和 5 年度より 5 %増加した。利用形態を地下サイレージからロールサイレージに一本化し、給与時のハンドリングの向上や腐敗によるロスの削減に努めた。コーンは台風被害を受けなかったが、病害の発生により収穫量は 24%減収となった。今後も草地の肥培管理や病害対策を徹底し、飼料用トウモロコシなどの高栄養多収作物の栽培面積を確保して栄養収量の確保に努める。

- c 資源循環型畜産推進事業(家畜排せつ物利活用促進対策) (R5) 15 千円 (R6) 15 千円
家畜ふん堆肥の広域的な流通を促進するため、家畜ふん堆肥の成分分析等を通じて、堆肥生産者及び利用者への技術指導を行った。

○ 牛ふん堆肥簡易診断システム堆肥分析件数 (令和 7 年 5 月 31 日現在) (単位: 件)

堆肥の種類	令和 6 年度	令和 7 年度	備 考
乳 牛	1	1	<分析項目> 水分・pH・EC 等
肉 牛	0	0	
そ の 他 の 堆 肥	0	0	
合 計	1	1	

[評価・改善]

令和 4 年度以降は、堆肥の成分分析を主体とした指導から堆肥の生産や流通に関する技術支援に重点を移しており、茶農家と畜産農家等で構成する富士山麓畜産堆肥利用促進協議会の耕畜連携の取組の推進等に貢献している。今後も、農林事務所・家畜保健衛生所と協力し、家畜ふん堆肥の流通や利用促進を図る。

- d 農薬適正使用管理体制強化事業(肥飼料指導費) (R6) 46 千円 (R7) 44 千円
広域に流通する飼料の安全性と品質を確保するため、「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」及び「農薬取締法」に基づき、飼料の安全性に関する情報収集を行うとともに、飼料の分析体制維持に必要な技術を確保するため、全国飼料品質改善協議会が実施する共通試料による分析鑑定に参加した。

[評価・改善]

共通試料による分析鑑定（水分・粗タンパク・粗灰分）では、解析結果が全国 204 試験室の中央値とほぼ一致し、高い分析精度を確保できた。引き続き飼料の安全性に関する情報収集を継続するとともに、飼料の分析体制維持に必要な技術の確保に努める。

- e 畜産物流通推進事業(畜産振興推進事業) (R6) 8 千円 (R7) 8 千円
大規模畜産農家の経営安定のための技術指導及び静岡県草地畜産振興連絡協議会が行う事業に対する助言指導を実施した。

[評価・改善]

酪農家の要望に応じ、牧草地の施肥管理や雑草対策、堆肥の水分調整などについて技術指導を行った。今後も酪農家畜産技術や経営に関する情報収集及び技術開発に努め、最新の情報をを用いて指導を実施する。

エ 養豚・養鶏科

(ア) 研究方針と研究課題

＜研究方針＞

遺伝子解析等の技術により、種豚・種鶏の開発と付加価値の高い豚肉・鶏肉の生産技術の確立を進める。また、ヒトの医療へ貢献するものとして医療用に特化した実験ブタの実用化を進める。

＜研究課題＞（（ ）内は実施年度、○印は重点研究課題）

- a S P F大ヨークシャー種「フジヨーク2」の維持と能力調査 (R2-R6)
- b 豚肉旨味成分のインピーダンス法による迅速予測手法の開発 (R6)
- c 駿河シャモ系統の長期維持を図る育種改良と始原生殖細胞の保存 (R3-R7)
- d 静岡型ブタアイソレーターシステムの利用拡大に向けた飼養管理技術の確立 (R4-R8)
- ⑤ 養豚産業を支える種豚の遺伝資源保存技術の確立 (R5-R7)
- f 筋ジストロフィーブタに関する繁殖及び生産 (R5-R7)
- g 新しい交配方法で生産されたフジキンカの種豚選抜基準の確立 (R5-R9)
- ⑥ D Xを活用したスマート養豚の構築 (R6-R7)
- i 系統豚「フジヨーク2」の遺伝資源保存に向けた集団の特性評価 (R7-R9)

[評価・改善]

研究課題については、概ね計画に沿った取組ができた。研究課題 e は、大学等研究期間と協力し災害時の養豚産業の回復に貢献する豚受精卵保存技術の実用化に向けて研究に取り組んでいる。研究課題 h は企業等と連携し養豚の暑熱対策技術等を開発により生産性の向上に寄与する。

(イ) 関連事業等

a 銘柄豚供給事業

センターは、昭和 62 年から全国に先駆けて SPF 豚（特定病原菌不在豚）による系統造成を開始した。平成 22 年に「フジヨーク」（大ヨークシャー種）の後継系統豚の「フジヨーク 2」が系統造成豚として認定され、平成 28 年度には「フジロック」（デュロック種）の後継系統豚として産肉性を強化した「フジロック 2」が認定され、平成 29 年度から供給を開始した。センターでは「フジヨーク 2」と「フジロック 2」を静岡型銘柄豚普及推進協議会に供給し、静岡型銘柄豚「ふじのくに」の生産を普及推進している。

また、「フジロック 2」と金華豚の長所を併せ持った高品質豚肉である「フジキンカ」を作出し、平成 22 年 6 月から原種豚や種豚を静岡県フジキンカ普及推進協議会へ供給している。

フジヨーク 2・フジロック 2・フジキンカの維持及び売り払い状況（令和 7 年 5 月 31 日現在）

銘柄名	開発時期	センターで 保有する 原種の頭数	売払状況					
			令和 6 年度			令和 7 年度		
			種豚		精液	種豚		精液
			戸数	頭数	本数	戸数	頭数	本数
フジヨーク 2	平成 22 年	おす 15 頭 めす 30 頭	3	10	12	1	1	3
フジロック 2	平成 28 年	おす 10 頭 めす 30 頭	6	16	52	2	3	12
フジキンカ	平成 22 年	おす 5 頭 めす 10 頭	3	33	0	3	8	0

[評価・改善]

「フジヨーク 2」は静岡型銘柄豚生産母豚の基礎豚として、「フジロック 2」は同銘柄豚生産雄豚として計画的に配布されている。

静岡型銘柄豚については、令和 6 年度の認定生産農家が 4 戸、銘柄豚の生産頭数が約 15,000 頭である。今後も、銘柄豚生産農家の維持と、静岡県の子豚生産の素材豚としての利用を進めていく。

フジキンカは高級豚肉として高い評価を受けており、令和 6 年度には 4 生産グループで約 2,100 頭が出荷されている。

b 銘柄鶏供給事業

センターは、特色ある畜産物として、平成元年に肉質の優れた特産鶏「駿河シャモ」を作出し、静岡県駿河シャモ振興会へ供給している。

駿河シャモの維持及び売り払い状況

（令和 7 年 5 月 31 日現在）

銘柄名	開発時期	センターで保有する 原種の羽数	売払状況			
			令和 6 年度		令和 7 年度	
			戸数	羽数	戸数	羽数
駿河シャモ	平成元年	おす 50 羽 めす 300 羽	5	9,255	5	1,515

[評価・改善]

静岡県駿河シャモ振興会会員の飼育計画に基づき計画的に供給し、銘柄鶏「駿河シャモ」の振興に寄与している。現在、飼育農家は 5 戸で、高級食材として県内外の料理・飲食店等からの要望が多く、令和 6 年度は 9,255 羽を出荷した。

ブロイラーに比べて長期間の飼育が必要であり、肉質にこだわった特産鶏であるため、規模拡大や大規模農家の参入が難しい面があるが、特徴のある地鶏の生産振興を支援していくため、振興会への安定的な種卵の供給に努めていく。

c 実験用ブタ供給事業

静岡県は大ヨークシャー種の子豚を、専用の施設、管理方法で飼育した実験用ブタ「SHIZUOKA EXPIG（シズオカエクスピッグ）」（商標登録済）を開発した。令和元年度から県内実験動物企業を通じて県内外へ供給している。なお、種豚は上記フジヨーク 2 と共通である。

SHIZUOKA EXPIG の維持及び売り払い状況

(令和 7 年 5 月 31 日現在)

銘柄名	開発時期	センターで保有する 原種の頭数	売払状況	
			令和 6 年度	令和 7 年度
			頭数	頭数
SHIZUOKA EXPIG	令和元年	おす 15 頭 めす 30 頭	12	0

[評価・改善]

実験動物学会等で普及活動を行った結果、販売先の拡大につながった。実験動物としてのブタの需要が増加しており、「SHIZUOKA EXPIG」も、医科系大学を中心に購入希望が続いている。今後、民間企業に生産を移譲するなどして、供給拡大を進める計画である。

オ 資源循環科

(ア) 研究方針と研究課題

<研究方針>

悪臭低減、畜産廃水処理等の畜産環境対策技術を開発する。

<研究課題> (() 内は実施年度)

a 活性汚泥処理の最適化と新規窒素除去反応アナモックスの利用による畜産廃水処理技術の高度化 (R4-R8)

b 豚舎における脱臭装置利用マニュアルの作成 (R6-R8)

[評価・改善]

研究課題については、概ね計画に沿った取組ができた。研究課題 a は畜舎排水の低コストな窒素低減技術として農場実証研究によるシステムの実用化に取り組んでいる。

カ 畜産経営環境技術センター

畜産経営環境の保全等を推進するため、堆肥化・廃水処理施設整備の技術支援、良質堆肥生産技術の向上、悪臭等の畜産環境問題の解決に向けた技術支援指導を実施してきた。

○ 技術指導等の実績

(令和 7 年 5 月 31 日現在) (単位:件)

区 分	令和 6 年度	令和 7 年度	備 考
施設整備等に係る技術支援	82	3	
市開催畜産環境協議会での技術指導	2	0	

キ 試験研究企画調整

(R6)591 千円 (R7)2,663 千円

畜産技術研究所（本所・センター）の試験研究課題の的確な設定および推進をするために、試験研究の企画調整、進捗管理を実施している。

（４）試験研究成果一覧表

試験研究成果一覧表

本所（令和6年度終了課題）

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度 前年度)	(全体 本年度)	
脱炭素化に 貢献する環 境制御と畜 産経営を両 立する持続 可能な畜産 業の推進	子実用トウモロコシ(国産濃厚飼料)の安定多収生産技術の開発	継続	国庫 共同	R4-R6	濃厚飼料の自給率を向上させるため子実用トウモロコシの安定多収生産技術を開発する。	堆肥を活用すること で化学肥料使用量を30%以上削減して も800kg/10aの目標 収量を確保できた。	飼料自給率の 向上に資する 子実用トウモ ロコシの安定 多収技術とし て普及する。	無	(2,200) 1,100	(3,200) 1,000	子実ト ウモロ コシ安 定生産 コンソ ーシア ム(農研 機構、8 道県等)
	田子の浦港しゅんせつ土由来脱水処理土の農業利用に関する検討	継続	受託	R4-R6	田子の浦港しゅんせつ土由来脱水処理土を牧草地の客土として利用するための適性試験を実施する。	しゅんせつ土由来脱水処理土を客土し、 堆肥等により土壌改良を行った結果、客土していないほ場と同等の牧草収量が得られた。	牧草地におけ る客土利用が 可能となること でしゅんせつ土 の有効活用が 図られる。	無	(3,000) 1,500	(4,500) 1,500	田子の浦 港管理 事務所
脱炭素化に 貢献する環 境制御と畜 産経営を両 立する持続 可能な畜産 業の推進	牧草地・飼料畑除草剤実用化試験	新規	受託	R6	飼料作物に対する除草剤、生育調整剤に関する薬効・薬害を調査し、新たな薬剤及び用法の実用化により自給飼料作物の生産性向上が図られる。	飼料用トウモロコシ及び牧草における適 用拡大に必要なデー タを取得する。	—	無	—	(627) 627	(公財) 日本植 物調節 剤研究 協会

試 験 研 究 成 果 一 覧 表
中小家畜研究センター（令和6年度終了課題）

区 分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研 究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度 前年度)	(全体) 本年度	
新たな需要を 生み出す新産 業創出と畜産 物のブランド 力向上	SPF大ヨークシ ヤーク種「フジヨ ーク2」の維持 と能力調査 ・長期維持手 法の検討 ・離乳子豚の 育一性改善	終了	単独	R2-R6 (R2-R6) (R2-R6)	「フジヨーク2」は、 静岡型銘柄豚「ふじ のくに」の種豚とし て用いられている。 その出荷頭数の継 続・増加には「フジ ヨーク2」の安定的 な供給が必要だが、 近交退化を抑制する ため、適切な血縁管 理が必要である。	血縁を考慮した計 画的交配で近交 係数を15%未満 に維持、近交退化 の指標となる繁殖 能力の低下は認め られなかった。子 豚の給餌方法の 改善と高産歴母 豚の更新により、 子豚の離乳時体 重のばらつきを抑 えた。	「フジヨーク 2」の安定供給 により、「ふじ のくに」の生産 が維持される。	無	(3,300) 549	—	
	省力化、生 産性向上を 実現するス マート畜産 の推進	終了	受託 共同	R6	ハンデーター測定 インピーダンス測定 器を用いて、豚肉の 熟成度と旨味成分 含量を迅速に予測す る手法を開発する。	豚ロース肉の保存 日数とインピーダ ンス値比、mK値、 グルタミン酸含量 の間に各相関が認 められた。 市販豚ロース肉で は、外国産と国 産、小売店間でイ ンピーダンス値 比、グルタミン酸 含量に有意な差が あった。	食肉流通現 場での旨味成 分の迅速測 定が可能とな り、豚肉の付 加価値向上 や販売促進 への寄与が 期待される。	無	(574.5) 574.5	—	農畜産 業振興 機構委 託調査 農林環 境専門 職大学

試験研究成果一覧表

本所 (令和7年5月31日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度 まで)	(令和7年度 分)	
省力化、生産 性向上を实 現するスマ ート畜産の 推進	超音波画像診断装 置による難治性乳 房炎処置基準の策 定 ・エコー画像によ る難治性乳房炎の 病態調査 ・エコーを用いた 難治性乳房炎処置 基準の策定	継続	単独	R6-R8 (R6-R8) (R7-R8)	乳牛で罹患するこ との多い乳房炎に ついて、従来の検 査に加え、超音波 画像診断装置を 利用して診断を行 うことで、より詳 細な病態把握を行 い、早期の処置に つなげる。	乳房の超音波画像デ ータと臨床検査を併 せた病態調査を行 い、乳房炎発症群(再 発群)の乳房画像の 特徴を検出した	超音波診断画 像による難治 性乳房炎の診 断マニュアルを 作成し、乳房炎 診療の一助と する。	無	(623) 623	(1,745) 1,117	
省力化、生産 性向上を实 現するスマ ート畜産の 推進	説明可能なAIを用 いた牛群中の乳 牛の序列を決定す る要素の解明	継続	国庫 共同	R6-R8	説明可能なAI(xAI) を活用して、乳牛 の序列判定に重要 な要因(特徴量) を解明する。	乳牛の序列判定に必 要な特徴を選定し た。 牛の画像から、個体 識別に必要な骨格情 報の抽出を実施中。	自動で牛群の 序列を診断す ること、牛の ストレスを緩 和し、生産性を 向上させる。	無	(715) 715	(910) 195	富士 工技 セ、 大学
脱炭素化に 貢献する畜 産経営を持 立可能な畜 産の推進	乳牛へのコーヒー 豆かす給餌による 乳質改善効果の検 討 ・コーヒー豆かす 給餌方法と効果の 検証 ・一般農場でのコ ーヒー豆かす給餌 効果の実証	継続	共同	R5-R7 (R5-R6) (R7)	乳牛へコーヒー豆 粕を給与すること により、乳房炎の 指標となる体細胞 数を低減させる効 果があることを一 般農場の牛群で検 証する。	乳牛にコーヒー豆か すを給与すること で暑熱期の酸化スト レスを軽減し、乳中 体細胞数の増加を抑 制することを実 証した。	野外試験を実 施し、民間農場 で効果を検証 する。	無	(902) 902	(1,688) 786	民間企 業、大学

試験研究成果一覧表

本所 (令和7年5月31日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度 前年度)	(全体 本年度)	
新たな需要を生み出す 新産業創出 と畜産物の ブラزند力 向上	採卵成績向上に向けた黒毛和種繁殖雌牛の新たな評価指標及び飼養管理方法の確立 ・採卵における新たな遺伝的能力推定法の検討 ・代謝プロファイルデスと採卵成績との関連性調査 ・遺伝的能力と代謝プロファイルデスを指標とした給与飼料調整による採卵成績向上の実証	継続	共同	R4-R8 (R4-R5) (R4-R5) (R5-R8)	和牛の受精卵生産に係る遺伝的能力を把握し、代謝プロファイルを活用して受精卵生産能力を最大限引き出す技術を開発する。	血中抗ミューラー管ホルモンと卵巣中胞状卵胞数の採卵成績との相関を確認した。代謝プロファイルデスにおいて、VAとAlbが採卵成績に相關し、T-cho、BUN、TP、BUN/Gluが一定範囲内にある場合に採卵成績が良い傾向が見られた。 採卵の2週間前にビタミンAを給与することで正常卵数が向上する。	採卵成績向上手法を所内および県内受精卵生産機関で活用し、受精卵供給増による肥育素牛増産を支援する。	無	(5,059) 1,914	(6,973) 2,226	農林環境専門職大学
新たな需要を生み出す 新産業創出 と畜産物の ブラزند力 向上	定時人工授精技術の改良による受精率の向上と受精間隔の短縮(R6-R8) ・黄体機能補強による受精率向上の検討 ・Resynch)による受精間隔短縮の検討	継続	単独	R6-R8 (R6-R8) (R6-R8)	乳用牛の生産開始までの期間の長期化を防ぐために、人工授精後のホルモン処置、早期妊娠診断、定時人工授精プログラムの組み合わせによる、受胎月齢の早期化を目指す。	Resynchを実施することで人工授精の間隔が短縮。受精率には差が認められなかった。	人工授精の間隔の短縮と受精率の向上が図られる。	無	(925) 925 —	(2,056) 1,131	

試験研究成果一覧表

本所 (令和7年5月31日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度 まで)	(全年度 本年度)	
脱炭素化に 貢献する環 境制御と畜 産経営を両 立する持続 可能な畜産 業の推進	越夏性に優れるラ イグラス新品種を 用いた省力的な草 地の高位安定生産 技術の開発	継続	国庫 共同	R4-R8	夏季の高温障害や 病害等による夏枯 れに対し、優良品 種を導入した草地 更新による生産性 向上を図る。	試験中の新規イタリ アエンライグラス型フ ェストロリウム系統 は越夏性に優れ、年 間収量が多い事が示 唆された。	粗飼料自給率 向上のため、追 播等による草 地メンテナンス 技術をマニエー ア化して普及 する。	無	(4,300) 1,400	(5,700) 1,400	イノベ 事業 04018C2 コンソー シアム (農研機 構、5県 等)
脱炭素化に 貢献する環 境制御と畜 産経営を両 立する持続 可能な畜産 業の推進	温室効果ガス (GHG)の放出を抑 制する家畜管理技 術の開発 ・牛からのGHG排出 量を削減する飼 料給餌方法の開 発 ・牛ふん尿の堆肥 化過程における GHG削減技術の 開発 ・GHG削減につなが る飼料増産技術 の開発	継続	共同	R5-R7	乳牛・肉牛の飼養 管理、ふん尿処理、 飼料生産の各工 程でGHG削減技術 を開発する。	・茶殻給与により牛 の呼吸中のCH ₄ 削 減を5%削減するこ とを確認した。 ・堆肥化工程でギン ナン果肉を添加す ることCH ₄ 発生 量の約70%が削減 されることが確認 された。 ・トウモロコシーム ギの作付体系は、 永年牧草に比べて 約2倍のGHG削減 効果が得られた。	農場から発生 する温室効果 ガスを20%削 減する技術を開 発し、県内産 畜産物による 温室効果ガス 削減商品市場 を開拓する。	無	(40,000) 22,000	(48,000) 8,000	(新成 長)

表 果 成 研 究 試 験 一 覧

本所 (令和6年5月31日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度 まで)	(全額) 本年度	
脱炭素化に 貢献する環 境制御と畜 産経営を両 立する持続 可能な畜産 業の推進	静岡県におけるシ バ型草地の早期造 成技術の開発	継続	単独	R5-R7	維持管理が容易な シバ型草地への転 換を促すため、県 内に導入可能なシ バ型草地の早期造 成技術を開発す る。	寒冷地（当所、伊豆 市天城）及び暖地 （浜松市）に試験圃 場を設置し、地域に 適したシバの品種選 定を実施中。。	傾斜地や耕作 放棄地の放牧 利用の拡大を 図る。	無	(2,400) 1,176	(3,828) 1,428	
	牧草飼料作物の品 種選定に関する試 験（系統適応性試験） ・オーチャードグ ラス	継続	国庫 受託	R5-R7	県外指定試験地 で育成された牧草 系統の地域適応 性を検討する。	オーチャードグ ラス2系統について実施 している。	オーチャードグ ラスの品種比 較試験を実施 し高能力品種 を選定する。	無	(220) 110	(330) 110	(一社) 日本草 地畜産 種子協 会
	飼料作物奨励品 種選抜試験 ・飼料用トウモロコ シ	継続	単独	R5-R7	優良品種の選定 試験を行い、県奨 励品種の早期普 及を図る。	飼料用トウモロコシ 4系統について実施 している。	成績の良好な 品種を静岡県 飼料作物奨励 品種に選定し、 県内への普及 を図る。	無	(1,847) 927	(2,767) 920	

試験研究成果一覧表

本所（令和6年5月31日現在）

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度 前年度)	(全 本年度)	
脱炭素化に 貢献する環境 産立可能な畜産 業の推進	牧草地・飼料畑除 草剤実用化試験	新規	受託	R7	飼料作物に対する 除草剤、生育調整 剤に関する薬効・ 被害を調査し、新 たな薬剤及び用法 の実用化により自 給飼料作物の生 産性向上が図られ る。	飼料用トウモロコシ 播種前に施用する除 草剤1種、牧草地更 新前に施用する除草 剤1種について効果 検証等を実施する。	－	無	－	契約前	(公財) 日本植 物調節 研究会
	特定外来生物アレ チウリの新たな防 除技術の開発	新規	単独	R7-R9	アレチウリの種 子、花芽及び植 物体それぞれに 対応する実用的 なアレチウリ防 除技術を開発す る。	アレチウリ防除に 有効な除草剤等 を選定し、散布後 分の土壌分解・残 留特性を調査す る。	雑草の発生を 抑制すること で耕作放棄 地の復活と自 給飼料の品 質向上が期 待される	無	－	(1,042) 1,042	

試験研究成果一覧表

中小家畜研究センター (令和7年5月31日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで)	(全体) 本年度	
新たな需要を生み出す新産業創出と畜産物のブランド力向上	駿河シヤモ系統の長期維持を図る育種改良と始原生殖細胞の保存 ・基礎鶏の作出 ・形質の安定化と能力確認 ・駿河シヤモの長期保存	継続	単独	R3-R7 (R3-R5) (R4-R7) (R3-R7)	県内養鶏農家及び消費者に対し、将来的に駿河シヤモを供給するため、血縁のない外部の鶏種を導入し、駿河シヤモ系統の長期維持を行う。	3系統の新しい駿河シヤモ候補の生産性を調査し、新系統を作出した。駿河シヤモの初期胚から採材した始原生殖細胞を他鶏種へ移植することにより、キメラ率30%以上の生殖細胞キメラの作出に成功した。	駿河シヤモの継続的な生産により消費者への安定供給に貢献する。また、遺伝資源保存方法の確立により、災害等による消失後の復元が可能になる。	無	(2,026) 319	(2,339) 313	
	静岡県ブタアイソレーターシステムの利用拡大に向けた飼養管理技術の確立 ・効率な無菌化方法の確立 ・無菌ミニブタの給餌プログラムの最適化 ・静岡県ブタアイソレーターシステムによる無菌家畜ブタ作出方法の確立	継続	単独	R4-R8 (R4) (R4-R6) (R6-R8)	先端医療分野から要望を受け開発した静岡県ブタ飼育アイソレーターシステムの利用拡大に向け、ミニブタと実験用家畜ブタを含めたより効率的な無菌ブタ飼養管理方法を確立する。	母豚へのプロジェステロン製剤投与により未熟子豚の娩出を低減した。飼料の種類の變更により子豚の糞便性状が改善し、通常飼育と同量の給餌で概ね同等の発育を確認した。家畜ブタの無菌飼育のため適正密度から飼育可能頭数を試算した。	得られた成果をマニュアル化し、共同開発企業を通じてユーザーに提案することにより、アイソレーターの拡販を推進する。	無	(949) 268	(1,191) 242	

試験研究成果一覧表

中小家畜研究センター (令和7年5月31日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備考
									(前年度 前年度)	(本年度 本年度)	
新たな需要を生み出す新産業創出と畜産物のブランド力向上	新養豚産業を支える種豚の遺伝資源保存技術の確立	継続	共同	R5-R7	自然災害や海外悪性伝染病に対する備えとして、有用な種豚の遺伝資源の保存するため、種豚場で実用可能な受精卵保存技術を開発する。	豚の経膈採卵専用器具を開発し平均15.7個の採卵に成功した。また、生存率90.3%の受精卵凍結液を開発した。集卵工程の効率化と受精卵の孵化率を改善した。	科学的知見については、関連学会にて発表を行う。開発された技術や製品については、共同研究企業とともに市販化し、農林事務所と連携して技術の普及を行う。	無	(35,000) 15,000	(50,000) 15,000	(新成長) 民間企業、大学
	・豚用経膈採卵技術の開発			(R5-R7)							
	・豚受精卵の大量凍結技術の開発			(R5-R7)							
	・種豚場で実用可能な受精卵保存技術の体系化			(R6-R7)							
新たな需要を生み出す新産業創出と畜産物のブランド力向上	筋ジストロフィー病に関する繁殖及び生産	継続	共同	R5-R7	ゲノム編集技術で作出した筋ジストロフィーミニニブタ(筋ジストロフィーの実用性を評価するため、キャリアメスの繁殖性と得られた筋ジストロフィーの特性を調査する。	筋ジストロフィーマウスとミニニブタの体格は野生型より有意に小さく成長することが判明した。キャリアメスの産子数は野生型に比べて有意に少ないが、世代を重ねると繁殖成績が回復する傾向を確認した。	遺伝子疾患治療分野から、難病である筋ジストロフィーの治療に向けて動物モデルとして期待されている。	無	(2,000) 1,000	(3,000) 1,000	精神・神経疾患研究費 大学、国立精神・神経医療研究センター

試験研究成果一覧表

中小家畜研究センター (令和7年5月31日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度 まで)	(全 本年度)	
新たな需要を 生み出す新産 業創出と畜産 物のブランド 力向上	新しい交配方法 で生産されたフ ジキンカの種豚 選抜基準の確 立 ・選抜形質の選 定 ・フジキンカ種 雄豚の選抜	継続	単独	R5-R9 (R5-R7) (R7-R9)	フジキンカの種豚 の選抜基準が確立 されていないため、 生産性の低い種豚 を供給する可能性 がある。生産した フジキンカ肥育豚 の成績から種豚の 能力を遺伝育種の 手法を用いて推定 し、種豚の選抜基 準を確立すること を目標とする。	フジキンカ種豚の枝 肉形質（枝肉重量、 背脂防厚）と体測形 質の相関を調査し、 枝肉重量と体重・体 高・前幅、背脂防厚 と前幅・胸幅・超音 波測定背脂防厚の関 連が示唆された。	フジキンカ普及 推進協議会を 通じて種豚の 供給と成果の 普及を行う。	無	(1,192) 496	(1,715) 523	
	省力化、生 産性向上をス 実現するス マート畜産 の推進	継続	共同	R6-R7 (R6-R7) (R6-R7) (R6-R7)	D X技術による自 動環境制御で環境 モニタリングと連 動した豚舎内温湿 度自動管理システ ムを構築し、暑熱 被害を軽減するこ とで生産性の向上 を目指す。また、 臭気予測システ ムを構築し地域全体 の脱臭対策の推進 を図る。	豚舎内温湿度で放射 冷却シートを自動作 動させるプログラム を構築し、出荷日齢 を25日短縮した。 臭気の地域への拡散 を予測するシステ ムをAIを活用して開 発中	開発した技 術について は市町村と 連携して普 及を図る。	無	(6,700) 6,700	(8,200) 1,500	(新成 長) 民間企 業

試験研究成果一覧表

中小家畜研究センター (令和7年5月31日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度 まで)	(全体 本年度)	
新たな需要を生み出す新産業創出と畜産物のブランド力向上	系統豚「フジヨーク2」の遺伝資源保存に向けた畜産団の特性評価 ・フジヨーク2の能力調査 ・遺伝子資源保存に向けた優先順位の設定	新規	単独	R7-R9 (R7-R9) (R9)	系統豚「フジヨーク2」の長期維持のため、形態形質と繁殖形質の調査により能力評価を行い、受精卵として遺伝資源を保存する優先順位を決定する。	—	「フジヨーク2」の近交係数の上昇を遅らせ、長期に安定供給させることで、「ふじのくに」の生産維持を図る。	無	—	(536) 536	
	脱炭素化に環境貢献を両立する畜産経営の推進	継続	国庫 共同	R4-R8 (R4-R8)	これまでの研究でアナモックス菌を利用した効率的な窒素除去方法を確立したことから、曝気制御の現地実証を行い、畜産農家が安価に導入できる窒素除去システムを開発する。	実証試験農場に導入した溶存酸素濃度に基づき曝気制御システムにより、曝気槽の溶存酸素濃度が安定し、窒素除去能の向上とアナモックス菌量の安定化を確認した。	現地実証システムの長期調査により、適切な商品化を目指すことで、養豚経営の安定を図る	無	(27,660) 5,453	(32,203) 4,543	(国)農 研 研 構 畜 研 産 究 部 門

試験研究成果一覧表

中小家畜研究センター (令和7年5月31日現在)

区 分 事業名	研究テーママ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研 究 期 間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで)	(全体) 本年度	
脱炭素化 に貢献す る環境制 御と畜産 経営を両 立する持 続可能な 畜産業の 推進	豚舎における脱臭 装置利用マニュア ルの作成	継続	単独	R6-R8	脱臭装置の効果的 な使用方法を明ら かにするため、洗 浄脱臭の最適な水 の使用量及び脱臭 の利用後の使用水の 処理方法を調査す るとともに、吸着 脱臭における臭気 物質ごとに適した 脱臭資材を検討 し、脱臭装置の利 用マニュアルを作 成する。	豚舎のアンモニア濃 度は室温とは相関が ないことを確認し た。8種類の脱臭資 材のアンモニアとイ ソ吉草酸の脱臭能力 を比較し、活性炭が 最も脱臭能力が高 く、他の資材はアン モニアとイソ吉草酸 で脱臭能力が異なる ことが判明した。	市の環境対策 協議会等で研 究成果を伝達 し、比較的取り 組みやすい脱 臭技術として 生産農場に普 及することによ り、豚舎悪臭の 苦情の減少を 目指す。	無	(387) 387	(766) 379	
	・次亜水を利用し た脱臭装置利用 マニュアルの作 成 ・洗浄脱臭後の脱 臭使用水の処 理法の提案 ・吸着型脱臭装置 内での脱臭資材 利用マニュアル の作成			(R6-8) (R7-8) (R6-7)							

(5) 研究成果の広報・普及

試験研究成果の広報・普及については、以下の冊子等を発行し、Webで公開するとともに生産者団体・農協の会合で研究員が説明している。

ア 試験研究の広報・普及活動

(令和6年度)

資 料 名	部 数	備 考
1 静岡県畜産技術研究所研究報告	Web	産業イノベーション推進課 産業イノベーション推進課 農業戦略課
2 静岡県畜産技術研究所研究トピックス	Web	
3 中小家畜研究センター要覧(センター)	200	
4 5研究所共通パンフレット	Web	
5 試験研究10大トピックス	Web	
6 あたらしい農業技術(朝霧地域における飼料畑周辺・緑地でのアレチウリ防除モデル)	Web	

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

資 料 名	部 数	備 考
1 中小家畜研究センター要覧(センター)	50	必要に応じて印刷

イ 学会発表及び機関誌投稿等

(令和6年度)

区分		本所	センター	計	備 考
発表	学会	1 回	7 回	8 回	日本畜産学会、東海畜産学会、日本家禽学会、日本水処理生物学会他
	投稿	0 回	10 回	10 回	日本胚移植研究会雑誌、日本養豚学会誌、東海畜産学会報、静岡県獣医師会会報 他
	講演会	3 回	2 回	5 回	富士山麓堆肥利用促進協議会、畜産堆肥展示会、県養豚協会総会記念講演会
		94 人	50 人	144 人	
指導	現地指導	4 回	108 回	112 回	肉牛共進会巡回選考、飼料作物生産、飼養管理技術、養豚廃水処理技術指導、脱臭対策技術指導 他
		33 人	178 人	211 人	
	来所指導	8 回	14 回	22 回	飼料作物生産、飼養管理技術、畜産環境対策指導 他
		15 人	25 人	40 人	
	電話指導	7 回	48 回	55 回	畜産環境対策、家畜の改良、飼養管理技術 他
視察 受入	学生	2 人	6 人	8 人	バイオマス設備実演、家畜人工授精講習会 他
	企業	20 人	0 人	20 人	
	農家	3 人	0 人	3 人	
	官庁	1 人	7 人	8 人	
	その他	1 人	0 人	1 人	
	小計	27 人	13 人	40 人	
マス コミ	取材	4 回	4 回	8 回	新聞 他

(令和7年度)
(令和7年5月31日現在)

区分		本所	センター	計	備考
発表	学会	0回	0回	0回	
	投稿	0回	2回	2回	animal、日本養豚学会誌
	講演会	0回	0回	0回	
		0人	0人	0人	
指導	現地指導	0回	9回	9回	養豚廃水処理技術指導、脱臭対策技術指導 他
		0人	9人	9人	
	来所指導	0回	2回	2回	繁殖・衛生管理指導 他
		0人	3人	3人	
	電話指導	3回	4回	7回	繁殖管理 他
視察 受入	学生	0人	0人	0人	
	企業	0人	0人	0人	
	農家	0人	0人	0人	
	官庁	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	
	小計	0人	0人	0人	
マス コミ	取材	0回	1回	1回	新聞

(6) その他の研修等普及指導・広報活動

試験研究成果の伝達と広報を主体に、実習生や研修生の受け入れおよび参観者などの視察の対応等を行っている。

ア 研修・実習関連業務

職員の資質向上、専門的な知識の習得、研究推進などを図るため、独立行政法人(独法)、国立研究開発法人(国研)等で研修を受けた。

(令和6年度)

区分	研修の種類	所属・氏名	実施場所	期 間
センター	農林水産関係若手研究者研修	主任研究員 山本千晶	中央合同庁舎	10月10日 ～10月11日
センター	豚胚の非外科移植技術研修	養豚・養鶏科長 大竹正剛	独立行政法人 家畜改良センター	3月3日 ～3月5日

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

区分	研修の種類	所属・氏名	実施場所	期 間
本 所	—	—	—	—
センター	—	—	—	—

イ 公開デーの開催

畜産への関心を高め、試験研究への理解を深めるため、一般県民を対象に「公開デー」を開催している。

(令和6年度)

機 関	名 称	開催日	開催場所	参加者数
本 所	夏休み親子農業教室	8月1日	本 所	20人
センター	夏休み親子農業教室(本所合同)	8月1日	本 所	—

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

機 関	名 称	開催日	開催場所	参加者数
本 所	夏休み親子農業教室	8月1日 予定	本 所	—
センター	夏休み親子農業教室(本所合同)	8月1日 予定	本 所	—

3 事業の根拠法令調

事業名	根拠法令
○畜産技術研究所試験研究費	・ 畜産技術研究所試験研究推進要領
○新成長戦略研究事業	・ 新成長戦略研究推進要綱
○公募競争型資金活用研究事業	・ 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業実施要領 ・ 補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律
○畜産業振興総合推進費 (家畜改良推進事業) (家畜改良増殖対策事業) (資源循環型畜産推進事業) (飼料生産推進事業) (畜産物流通推進事業)	・ 家畜改良増殖法 ・ 家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律 ・ 酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律 ・ 静岡県酪農・肉用牛生産近代化計画
○農業振興総合推進費 (農薬適正使用管理体制強化事業)	・ 農薬取締法 ・ 飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律
○受託放牧育成事業	・ 畜産技術研究所乳用牛放牧育成業務実施要領
○和牛受精卵供給事業	・ 静岡県和牛改良推進協議会規約 ・ 家畜改良増殖法 ・ 家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律
○銘柄豚供給事業	・ 養豚農業振興法 ・ 静岡県系統豚売払い要領 ・ 静岡県「フジキンカ」売払い要領
○銘柄鶏供給事業	・ 静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センター「駿河シャモ」譲渡要領

職 員 調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤 務 年 数	摘 要
1	経済産業部 参事兼所長 (技)	手塚 喜代美	所 総 括	□□□	□年□月	□□□□□□□□
2	研究統括官 兼酪農科長 (技)	仲田 亘	酪農科・肉牛科・飼料 環境科統括 試験研究予算総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□
3	研究調整官 (技)	塩谷 治彦	試験研究推進調整	□□□	□年□月	□□□□□□□□

総務課

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤 務 年 数	摘 要
4	課長(事)	服部 広輝	総務課総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□
5	主査(事)	植田 潤一郎	総務・会計	□□□	□年□月	□□□□□□□□
6	主事	関 祐音	総務・会計	□□□	□年□月	□□□□□□□□
7	技能長	松浦 武彦	牧草維持管理 総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□
8	技能長	田中 義久	肉牛・放牧牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
9	技能長	金子 裕二	肉牛・放牧牛管理 総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□
10	技能長	佐野 淳司	牧草維持管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
11	技能長	前嶋 智	肉牛・放牧牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
12	技能長	金森 伸行	乳牛管理 総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□
13	技能長	清 理祥	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
14	主任技能員	山上 秀隆	肉牛・放牧牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
15	主任技能員	高野 良夫	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
16	主任技能員	小笠原 志織	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
17	技能員	中島 優	牧草維持管理	□□□	□年□月	
18	技能員	上原 孝之	牧草維持管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
19	技能員	池田 彩乃	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
20	技能員	鈴木 健太郎	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□

総務課中小家畜分室

整理番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤 務 年 数	摘 要
21	中小家畜分室長(事)	奥留 利枝	中小家畜分室総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□
22	主任(事)	萩原 健人	中小家畜分室総務・会計	□□□	□年□月	□□□□□□□□
23	主任(事)	中山 隼	中小家畜分室総務・会計	□□□	□年□月	□□□□□□□□
24	技能長	児玉 裕之	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
25	技能長	堀 心	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
26	技能長	剣持 嘉乃	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
27	主任技能員	八木 也寸市	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□
28	技能員	増田 元紀	飼養管理	□□□	□年□月	
29	技能員	道下 仁美	飼養管理	□□□	□年□月	
30	技能員	落合 良英	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□□□

酪農科

整理番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤 務 年 数	摘 要
31	上席研究員(技)	関間 英之	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
32	主任(技)	齊藤 美英	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
33	主任研究員(技)	川上 智子	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
34	主任研究員(技)	橘川 学	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□

肉牛科

整理番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤 務 年 数	摘 要
35	科長(技)	小林 幸恵	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
36	主任研究員(技)	平井 亮	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
37	研究員(技)	松田 隆誠	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□

飼料環境科

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
38	科長(技)	高野 浩	環境保全研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
39	主任研究員(技)	藤川 哲平	草地飼料研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
40	研究員(技)	松本 悠希	草地飼料研究	□□□	□年□月	

中小家畜研究センター

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
41	センター長(技)	鈴木 巧	センター総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□
42	研究統括官兼資源循環科長(技)	矢島 秀歌	センター研究企画総括、資源循環研究総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□

養豚・養鶏科

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
43	科長(技)	大竹 正剛	養豚・養鶏研究総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□
44	上席研究員(技)	大谷 利之	飼育技術研究(養豚)	□□□	□年□月	□□□□□□□□
45	上席研究員(技)	梶原 一洋	育種・繁殖研究(養豚)	□□□	□年□月	□□□□□□□□
46	上席研究員(技)	進士 遥奈	育種・繁殖研究(養鶏)	□□□	□年□月	□□□□□□□□
47	主任(技)	杉山 典	育種・繁殖研究(養豚)	□□□	□年□月	□□□□□□□□
48	主任研究員(技)	鈴木 駿	生物工学の研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
49	主任研究員(技)	山本 千晶	育種・繁殖研究(養豚)	□□□	□年□月	□□□□□□□□

資源循環科

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
50	上席研究員(技)	石本 史子	畜産排水処理の研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
51	上席研究員(技)	松村 淳文	環境保全研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
平均年数					11年1月	

会計年度任用職員

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	会計年度任用 職員	佐野 学	車両運転、所内環境整備	□□□	□年□月	
2	会計年度任用 職員	佐野 広子	総務事務	□□□	□年□月	
3	会計年度任用 職員	相馬 真由美	乳牛管理	□□□	□年□月	
4	会計年度任用 職員	佐野 和久	乳牛管理	□□□	□年□月	
5	会計年度任用 職員	保竹 佑樹	乳牛管理	□□□	□年□月	
6	会計年度任用 職員	加藤 昌己	乳牛管理	□□□	□年□月	
7	会計年度任用 職員	藤本 挙浩	肉牛・放牧牛管理	□□□	□年□月	
8	会計年度任用 職員	熊谷 正一	肉牛・放牧牛管理	□□□	□年□月	
9	会計年度任用 職員	保竹 威	圃場管理	□□□	□年□月	
10	会計年度任用 職員	熊谷 直美	圃場管理	□□□	□年□月	
11	会計年度任用 職員	横田 崇	圃場管理	□□□	□年□月	
12	会計年度任用 職員	望月 勝彦	圃場管理	□□□	□年□月	
13	会計年度任用 職員	鈴木 かおり	総務事務	□□□	□年□月	
14	会計年度任用 職員	松屋 真人	鶏飼養管理	□□□	□年□月	
15	会計年度任用 職員	伊藤 幸雄	鶏飼養管理	□□□	□年□月	
16	会計年度任用 職員	荒川 治雄	鶏飼養管理	□□□	□年□月	
17	会計年度任用 職員	木村 良幸	豚飼養管理	□□□	□年□月	
18	会計年度任用 職員	山本 麻友子	豚飼養管理	□□□	□年□月	
19	会計年度任用 職員	赤堀 和一	家畜浄化施設管理	□□□	□年□月	
計		19 人				

職 員 調

畜産経営環境技術センター

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	所長(技)	鈴木 巧	センター総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□
2	研究統括官(技)	矢島 秀歌	所長補佐	□□□	□年□月	□□□□□□□□
3	上席研究員(技)	石本 史子	経営、環境研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
4	上席研究員(技)	松村 淳文	経営、環境研究	□□□	□年□月	□□□□□□□□
計		4人				

※摘要欄(兼)は、中小家畜研究センターを本務とし、畜産経営環境技術センターを兼務していることを表す。

職員の年齢調

(令和7年5月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	5 人	
30歳以上40歳未満	10 人	
40歳以上50歳未満	8 人	
50歳以上56歳未満	15 人	
56歳以上61歳未満	8 人	
61歳以上	5 人	再任用5人
計	51 人	平均年齢 46.8歳

職員の年齢調

畜産経営環境技術センター

(令和7年5月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	0 人	
30歳以上40歳未満	0 人	
40歳以上50歳未満	1 人	
50歳以上56歳未満	1 人	(兼)
56歳以上61歳未満	2 人	(兼)
61歳以上	0 人	
計	4 人	平均年齢 53.5歳

※ 摘要欄（兼）は、中小家畜研究センターを本務とし、畜産経営環境技術センターを兼務していることを表す。

健康 管理

1 令和 6 年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 50 人 職員数 52 人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由
休職、育休

2 令和 7 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0人
B 2		要経過観察	0人
C 1	勤務をほぼ平常に行っていが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	6(6)人
C 2		要経過観察	0人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	13(13)人
D 2		要経過観察	13(13)人
D 3		医 療 不 要	16(16)人
区 分 者 計			48(48)人
未区分者数			3人
合 計			51(48)人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者
に対する措置状況
C 1 : 時間外勤務及び長期、
遠方への出張の制限

(2) 未区分の理由
ア 産休・育休 0人
イ 新規採用 2人
ウ 自己都合による未受診 0人
エ その他 1人

職員配置調

(令和7年5月31日現在)

区 分		総務課	酪農科	肉牛科	飼料環境科	中小家畜研究センター	計
所 在 地		富士宮市猪之頭 1 9 4 5				菊川市西方 2 7 8 0	
担 当 区 域							
配置職員	職 員 (事)	3				3	6
	職 員 (技)	3	3	3	3	10	22
	職 員 (技 能)	12				6	18
	暫定再任用職員(事)						
	暫定再任用職員(技)		1			1	2
	暫定再任用職員(技能)	2				1	3
	定年前再任用短時間勤務職員(事)						
	定年前再任用短時間勤務職員(技)						
	定年前再任用短時間勤務職員(技能)						
	会 計 年 度 任 用 職 員	(2)	(4)	(2)	(4)	(7)	(19)
計		20 (2)	4 (4)	3 (2)	3 (4)	21 (7)	51 (19)

職員配置調

畜産経営環境技術センター
(令和7年5月31日現在)

区 分		研究スタッフ	計
所 在 地		菊川市西方 2 7 8 0	
担 当 区 域		県下全域	
配置職員	職 員 (事)		
	職 員 (技)	(4)	(4)
	職 員 (技 能)		
	暫定再任用職員(事)		
	暫定再任用職員(技)		
	暫定再任用職員(技能)		
	定年前再任用短時間勤務職員(事)		
	定年前再任用短時間勤務職員(技)		
	定年前再任用短時間勤務職員(技能)		
	会 計 年 度 任 用 職 員		
計		(4)	(4)

歳 入 予 算

一般会計

区 分	調 定 額 A 円	収 入 済 額	
		納 期 内 B 円	納 期 後 C 円
款 08使用料及び手数料	27,000	27,000	0
項 01使用料	27,000	27,000	0
目 06経済産業使用料	27,000	27,000	0
12庁舎等使用料	27,000	27,000	0
款 10財産収入	26,291,319	25,680,475	610,844
項 01財産運用収入	157,200	157,200	0
目 01財産貸付収入	157,200	157,200	0
01職員住宅貸付料	145,200	145,200	0
02土地貸付料	12,000	12,000	0
項 02財産売払収入	26,134,119	25,523,275	610,844
目 03生産物売払収入	26,134,119	25,523,275	610,844
02農業関係技術研究所生産物売払収入	26,134,119	25,523,275	610,844
款 14諸収入	4,814,809	4,814,809	0
項 04受託事業収入	3,200,000	3,200,000	0
目 05経済産業受託事業収入	3,200,000	3,200,000	0
10中小家畜研究センター研究受託料	3,200,000	3,200,000	0
項 07雑入	1,614,809	1,614,809	0
目 02雑入	1,614,809	1,614,809	0
87保険料負担金	1,423,347	1,423,347	0
非常勤職員	1,423,347	1,423,347	0
89過年度返納金	87,560	87,560	0
90雑収	103,902	103,902	0
計	31,133,128	30,522,284	610,844

執 行 状 況 調

(令和 6年度)
(令和 7年 5月31日現在)

不 納 欠 損 額 D	収 入 未 済 額			収 入 歩 合 $\frac{B+C}{A-D-F}$	納 期 内 収 入 率 $\frac{B}{A-D-F}$
	納 期 限 経 過 E	納 期 限 未 到 来 F	計		
円	円	円	円	%	%
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	97.6
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	97.6
0	0	0	0	100.0	97.6
0	0	0	0	100.0	97.6
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	98.0

歳 入 予 算

一般会計

区 分	調 定 額 A 円	収 入 済 額	
		納 期 内 B 円	納 期 後 C 円
款 08使用料及び手数料	27,000	15,000	12,000
項 01使用料	27,000	15,000	12,000
目 07経済産業使用料	27,000	15,000	12,000
12庁舎等使用料	27,000	15,000	12,000
款 10財産収入	2,808,491	2,524,591	4,500
項 01財産運用収入	36,200	31,700	4,500
目 01財産貸付収入	36,200	31,700	4,500
01職員住宅貸付料	24,200	24,200	0
02土地貸付料	12,000	7,500	4,500
項 02財産売払収入	2,772,291	2,492,891	0
目 03生産物売払収入	2,772,291	2,492,891	0
02農業関係技術研究所生産物売払収入	2,772,291	2,492,891	0
款 14諸収入	95,455	95,455	0
項 07雑入	95,455	95,455	0
目 02雑入	95,455	95,455	0
90保険料負担金	92,401	92,401	0
非常勤職員	92,401	92,401	0
93雑収	3,054	3,054	0
計	2,930,946	2,635,046	16,500

執 行 状 況 調

(令和 7年度)
(令和 7年 5月31日現在)

不 納 欠 損 額 D	収 入 未 済 額			収 入 歩 合 $\frac{B+C}{A-D-F}$	納 期 内 収 入 率 $\frac{B}{A-D-F}$
	納 期 限 経 過 E	納 期 限 未 到 来 F	計		
円	円	円	円	%	%
0	0	0	0	100.0	55.5
0	0	0	0	100.0	55.5
0	0	0	0	100.0	55.5
0	0	0	0	100.0	55.5
0	0	279,400	279,400	100.0	99.8
0	0	0	0	100.0	87.5
0	0	0	0	100.0	87.5
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	62.5
0	0	279,400	279,400	100.0	100.0
0	0	279,400	279,400	100.0	100.0
0	0	279,400	279,400	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	279,400	279,400	100.0	99.3

預 金 調

(令和7年5月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘要
静岡銀行 菊川支店	無利息型普通預金	0622391	中小家畜研究センター 資金前渡者 鈴木 巧	0	研修参加費等資金前渡用
静岡銀行 菊川支店	無利息型普通預金	0622380	(自振口) 中小家畜研究センター 資金前渡者 鈴木 巧	0	公共料金等口座振替用
残 高 合 計				0	

調 査 受 入 等 郵 券

(令和7年5月31日現在)
(単位:枚、円)

区 分	種 類	6 年 度				7 年 度				差引現在高		摘 要		
		繰 越		受 入		繰 越		受 入						
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額					
郵便	180 円券	0	0	150	27,000	83	14,940	100	18,000	21	3,780	146	26,280	書類の郵送
	140 円券	39	5,460	110	15,400	123	17,220	100	14,000	27	3,780	99	13,860	〃
	120 円券	20	2,400	0	0	20	2,400	0	0	0	0	0	0	〃
	110 円券	0	0	200	22,000	147	16,170	200	22,000	49	5,390	204	22,440	〃
	100 円券	57	5,700	0	0	57	5,700	0	0	0	0	0	0	〃
	94 円券	15	1,410	0	0	15	1,410	0	0	0	0	0	0	〃
	84 円券	95	7,980	60	5,040	155	13,020	0	0	0	0	0	0	〃
	63 円券	5	315	0	0	5	315	0	0	0	0	0	0	〃
	10 円券	107	1,070	100	1,000	165	1,650	100	1,000	10	100	132	1,320	〃
		計		24,335		70,440		72,825		55,000		13,050		63,900
県証紙	5000 円券	9	45,000	40	200,000	35	175,000	30	150,000	8	40,000	36	180,000	豚熱予防注射
	1000 円券	70	70,000	5	5,000	62	62,000	20	20,000	3	3,000	30	30,000	豚熱予防注射・安全運転管理者講習
	500 円券	19	9,500	0	0	9	4,500	0	0	0	0	10	5,000	〃
	100 円券	29	2,900	20	2,000	19	1,900	0	0	2	200	28	2,800	豚熱予防注射
	50 円券	9	450	0	0	1	50	0	0	1	50	7	350	〃
	10 円券	44	440	0	0	24	240	0	0	1	10	19	190	〃
		計		128,290		207,000		243,690		170,000		43,260		218,340
収入印紙	10 円券	16	160	0	0	0	0	0	0	0	0	16	160	
	計		160		0		0		0		0		160	

歳出予算執行状況調

一般会計

(令和 6年度)

(令和 7年 5月31日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
款 04 経営管理費	円 9,497,436	円 9,497,436	円 0	
項 01 経営管理費	9,497,436	9,497,436	0	
目 01 一般総務費	2,404,554	2,404,554	0	
01 報酬	1,417,168	1,417,168	0	
03 非常勤職員報酬	1,417,168	1,417,168	0	
03 職員手当等	274,465	274,465	0	
01 その他の職員手当等	274,465	274,465	0	
04 共済費	655,005	655,005	0	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	94,832	94,832	0	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	560,173	560,173	0	
08 旅費	57,916	57,916	0	
01 その他の旅費	57,916	57,916	0	
目 04 職員厚生費	46,882	46,882	0	
10 需用費	46,882	46,882	0	
01 その他の需用費	46,882	46,882	0	
目 05 資産経営費	7,046,000	7,046,000	0	
10 需用費	424,000	424,000	0	
01 その他の需用費	424,000	424,000	0	
14 工事請負費	6,622,000	6,622,000	0	
款 08 経済産業費	138,611,870	138,611,870	0	
項 01 経済産業費	2,515,671	2,515,671	0	
目 01 経済産業総務費	2,511,311	2,511,311	0	
01 報酬	1,558,000	1,558,000	0	
03 非常勤職員報酬	1,558,000	1,558,000	0	
03 職員手当等	626,455	626,455	0	
01 その他の職員手当等	626,455	626,455	0	
04 共済費	326,856	326,856	0	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	90,994	90,994	0	

一般会計

(令和 6年度)
(令和 7年 5月31日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	円 235,862	円 235,862	円 0	
目 02 経済産業企画費	4,360	4,360	0	
08 旅費	4,360	4,360	0	
02 普通旅費	4,360	4,360	0	
項 02 産業革新費	17,632,963	17,632,963	0	
目 01 産業革新費	17,632,963	17,632,963	0	
07 報償費	0	0	0	
01 その他の報償費	0	0	0	
08 旅費	829,230	829,230	0	
01 その他の旅費	0	0	0	
02 普通旅費	829,230	829,230	0	
10 需用費	4,848,687	4,848,687	0	
01 その他の需用費	4,848,687	4,848,687	0	
11 役務費	1,674,125	1,674,125	0	
12 委託料	9,077,748	9,077,748	0	
13 使用料及び賃借料	0	0	0	
17 備品購入費	1,053,173	1,053,173	0	
18 負担金、補助及び交付金	150,000	150,000	0	
項 05 農業費	118,463,236	118,463,236	0	
目 01 農業費	118,446,816	118,446,816	0	
01 報酬	12,094,109	12,094,109	0	
03 非常勤職員報酬	12,094,109	12,094,109	0	
03 職員手当等	4,132,694	4,132,694	0	
01 その他の職員手当等	4,132,694	4,132,694	0	
04 共済費	3,282,517	3,282,517	0	
01 地方公務員共済組合に対する負担金	845,790	845,790	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	2,436,727	2,436,727	0	
07 報償費	0	0	0	

一般会計

(令和 6年度)
(令和 7年 5月31日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
01 その他の報償費	円 0	円 0	円 0	
08 旅費	1,483,673	1,483,673	0	
01 その他の旅費	848,063	848,063	0	
02 普通旅費	635,610	635,610	0	
10 需用費	66,350,151	66,350,151	0	
01 その他の需用費	66,350,151	66,350,151	0	
11 役務費	5,936,656	5,936,656	0	
12 委託料	5,994,520	5,994,520	0	
13 使用料及び賃借料	1,844,637	1,844,637	0	
14 工事請負費	17,081,570	17,081,570	0	
18 負担金、補助及び交付金	176,789	176,789	0	
26 公課費	69,500	69,500	0	
目 02 畜産業費	16,420	16,420	0	
08 旅費	12,560	12,560	0	
02 普通旅費	12,560	12,560	0	
10 需用費	3,860	3,860	0	
01 その他の需用費	3,860	3,860	0	
11 役務費	0	0	0	
計	148,109,306	148,109,306	0	

歳出予算執行状況調

(令和 7年度)

(令和 7年 5月31日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
款 03 総務費	832,206	0	832,206	
項 01 総務費	832,206	0	832,206	
目 01 一般総務費	832,206	0	832,206	
04 共済費	832,206	0	832,206	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	832,206	0	832,206	
款 04 財務費	1,673,000	0	1,673,000	
項 01 財務費	1,673,000	0	1,673,000	
目 03 行政経営費	1,673,000	0	1,673,000	
14 工事請負費	1,673,000	0	1,673,000	
款 09 経済産業費	155,931,700	9,757,680	146,174,020	
項 01 経済産業費	6,000	0	6,000	
目 02 経済産業企画費	6,000	0	6,000	
08 旅費	6,000	0	6,000	
02 普通旅費	6,000	0	6,000	
項 02 産業革新費	16,410,000	2,676,559	13,733,441	
目 01 産業革新費	16,410,000	2,676,559	13,733,441	
07 報償費	23,000	0	23,000	
01 その他の報償費	23,000	0	23,000	
08 旅費	1,114,000	103,460	1,010,540	
01 その他の旅費	94,000	0	94,000	
02 普通旅費	1,020,000	103,460	916,540	
10 需用費	4,809,000	1,136,720	3,672,280	
01 その他の需用費	4,809,000	1,136,720	3,672,280	
11 役務費	1,224,000	10,087	1,213,913	
12 委託料	7,405,000	1,383,292	6,021,708	
13 使用料及び賃借料	60,000	0	60,000	
17 備品購入費	1,475,000	0	1,475,000	
18 負担金、補助及び交付金	300,000	43,000	257,000	

一般会計

(令和 7年度)
(令和 7年 5月31日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
項 05 農業費	円 139,515,700	円 7,081,121	円 132,434,579	
目 01 農業費	139,477,000	7,081,121	132,395,879	
01 報酬	14,223,000	1,221,612	13,001,388	
03 非常勤職員報酬	14,223,000	1,221,612	13,001,388	
03 職員手当等	5,654,000	0	5,654,000	
01 その他の職員手当等	5,654,000	0	5,654,000	
04 共済費	5,552,000	119,208	5,432,792	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	1,223,000	119,208	1,103,792	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	4,329,000	0	4,329,000	
08 旅費	1,303,000	79,940	1,223,060	
01 その他の旅費	1,020,000	74,600	945,400	
02 普通旅費	283,000	5,340	277,660	
10 需用費	57,889,000	4,449,452	53,439,548	
01 その他の需用費	57,889,000	4,449,452	53,439,548	
11 役務費	5,518,000	448,667	5,069,333	
12 委託料	4,347,000	530,840	3,816,160	
13 使用料及び賃借料	2,718,000	216,202	2,501,798	
14 工事請負費	40,433,000	0	40,433,000	
17 備品購入費	1,650,000	0	1,650,000	
18 負担金、補助及び交付 金	127,000	2,000	125,000	
26 公課費	63,000	13,200	49,800	
目 02 畜産業費	38,700	0	38,700	
08 旅費	17,100	0	17,100	
02 普通旅費	17,100	0	17,100	
10 需用費	17,000	0	17,000	
01 その他の需用費	17,000	0	17,000	
11 役務費	4,600	0	4,600	
計	158,436,906	9,757,680	148,679,226	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、令和5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費		9,077,748	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費		5,994,520	
計					17,090,564	15,072,268	0
(14) 工事請負費	一般会計	経営管理費	経営管理費	資産経営費		6,622,000	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費		17,081,570	
計					50,674,373	23,703,570	0
(16) 公有財産 購入費							
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費		1,053,173	
計					15,292,046	1,053,173	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費		150,000	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費		176,789	
計					292,000	326,789	0
(21) 補償、補填 及び賠償金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表 令和7年度
(令和7年5月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費	1,383,292	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費	530,840	
計					1,914,132	0
(14) 工事請負費						
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費						
計					0	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費	43,000	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費	2,000	
計					45,000	0
(21) 補償、補填 及び賠償金						
計					0	0

全面余白

委 託 料 に

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額		
				当初額	変更増減額	計
1	自家用電気工作物 保安管理業務	(一財)中部電気保安協会 掛川営業所	円 399,960	円 399,960	円	円 399,960
2	夜間警備業務	セコム (株)	336,600	336,600		336,600
3	清掃等業務	東海ビル管理 (株)	399,960	399,960		399,960
4	電話設備 保守点検業務	三興電機 (株)	166,100	125,400		125,400
5	合併処理施設 管理業務	静岡県西部環境整備 (株)	605,000	605,000		605,000
6	家畜排水処理施設 管理業務	静岡県西部環境整備 (株)	234,520	234,520		234,520
7	冷凍空調熱源設備 機器保守管理業務	東海サーモエンジニアリング (株)	1,100,000	1,078,000		1,078,000
8	消防設備等 保守点検業務	セルコ (株) 掛川営業所	759,412	455,400		455,400
9	産業廃棄物収集・運搬 及び処分業務	リサイクルクリーン (株)	269,500	231,000		231,000
10	産業廃棄物 (金属くず) 収集・運搬業務	(株) 山内商店	55,000	55,000		55,000
頁計			4,326,052	3,920,840	0	3,920,840

関 する 調

(令和6年度)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の内容	摘要
随契	R6. 4. 1 ～ R7. 3. 31	R6. 4. 26	円 399,960	自家用電気工作物の 保安管理業務	随契 2号 (不適)
随契	R6. 4. 1 ～ R7. 3. 31	R6. 5. 27	28,050	夜間等の機械警備及び 火災報知器監視業務	随契 2号 (不適)
		R6. 6. 24	28,050		
		R6. 7. 23	28,050		
		R6. 8. 22	28,050		
		R6. 9. 25	28,050		
		R6. 10. 25	28,050		
		R6. 11. 27	28,050		
		R6. 12. 25	28,050		
		R7. 1. 24	28,050		
		R7. 2. 21	28,050		
		R7. 3. 19	28,050		
		R7. 4. 24	28,050		
		小 計	336,600		
随契	R6. 4. 1 ～ R7. 3. 31	R6. 5. 23	33,330	庁舎管理棟及びその周辺 の清掃等業務	随契 1号 (少額)
		R6. 6. 21	33,330		
		R6. 7. 22	33,330		
		R6. 8. 21	33,330		
		R6. 9. 26	33,330		
		R6. 10. 22	33,330		
		R6. 11. 22	33,330		
		R6. 12. 23	33,330		
		R7. 1. 24	33,330		
		R7. 2. 21	33,330		
		R7. 3. 24	33,330		
		R7. 4. 21	33,330		
		小 計	399,960		
随契	R6. 4. 1 ～ R7. 3. 31	R6. 5. 14	31,350	電話設備の保守点検業務	随契 1号 (少額)
		R6. 8. 9	31,350		
		R6. 11. 7	31,350		
		R7. 3. 13	31,350		
		小 計	125,400		
随契	R6. 4. 1 ～ R7. 3. 31	R6. 10. 22	302,500	合併処理施設(浄化槽) の保守管理業務	随契 1号 (少額)
		R7. 4. 10	302,500		
		小 計	605,000		
随契	R6. 4. 1 ～ R7. 3. 31	R6. 10. 22	117,260	家畜排水処理施設の保守 管理業務	随契 1号 (少額)
		R7. 4. 10	117,260		
		小 計	234,520		
指名	R6. 4. 1 ～ R7. 3. 31	R6. 10. 11	855,304	センター内冷凍空調設備、 熱源設備機器(ボイラー)の 保守点検業務	指名
		R7. 4. 1	222,696		
		小 計	1,078,000		
随契	R6. 4. 1 ～ R7. 3. 31	R6. 10. 2	206,800	消防設備の保守点検業務	随契 1号 (少額)
		R7. 3. 28	248,600		
		小 計	455,400		
随契	R6. 4. 1 ～ R7. 3. 31	R6. 6. 24	38,500	産業廃棄物 収集運搬処分業務	随契 1号 (少額)
		R6. 8. 27	38,500		
		R6. 10. 29	38,500		
		R7. 1. 6	38,500		
		R7. 2. 21	38,500		
		R7. 4. 28	38,500		
		小 計	231,000		
随契	R6. 9. 11 ～ R7. 3. 31	R6. 11. 19	27,500	産業廃棄物(金属くず) 収集運搬業務	随契 1号 (少額)
		R7. 3. 28	27,500		
		小 計	55,000		
			3,920,840		

委 託 料 に

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額		
				当初額	変更増減額	計
11	産業廃棄物（燃え殻）収集・ 運搬及び処分委託	静和エンバイロメント（株）	90,200	90,200		90,200
12	産業廃棄物（燃え殻）収集・ 運搬及び処分委託	静和エンバイロメント（株）	126,500	126,500		126,500
13	産業廃棄物（感染性）収集・ 運搬業務委託	日本産業廃棄物処理（株）	65,560	65,560		65,560
14	産業廃棄物（感染性） 処分業務委託	角松商事(有)	19,250	19,250		19,250
15	養豚廃水処理施設 間欠曝気システム製作委託	イクナム研設（株）	84,260	84,260		84,260
16	養豚廃水処理施設 養豚廃水処理施設バイオマス 増殖装置製作委託	イクナム研設（株）	246,510	246,510		246,510
17	敷地南側及び北東緑地帯 危険木伐採業務委託	掛川市森林組合	605,000	605,000	136,400	741,400
18	実験器具洗浄及び 実験補助業務	（株）レンティック中部	992,640	992,640		992,640
19	産業廃棄物（保冷库） 収集運搬処分業務委託	（株）リサイクルクリーン	75,900	75,900		75,900
20	豚受精卵の大量凍結技術の 開発にかかる試験業務委託	（公財）実験動物中央研究所	1,300,572	1,300,572		1,300,572
21	ホルモン処置による採卵効率 向上技術の開発に関する 試験業務委託	（学法）麻布獣医学園	2,400,671	2,400,671		2,400,671
22	豚経腔採卵用保定具 製作業務委託	富士平工業（株）	2,398,000	2,398,000		2,398,000
23	放射冷却シート 可動装置製作委託	イクナム研設（株）	1,909,965	1,909,965		1,909,965
24	超音波噴霧装置製作委託	イクナム研設（株）	495,000	495,000		495,000
25	計測値送信蓄積装置製作委託	ユメ・ソリューション（株）	205,000	205,000		205,000
頁計			11,015,028	11,015,028	136,400	11,151,428
合計			15,341,080	14,935,868	136,400	15,072,268

関 する 調

(令和6年度)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の内容	摘要
随契	R6. 5. 24 ～ R7. 3. 31	R6. 6. 24	90,200	産業廃棄物（燃え殻） 収集運搬業務	随契 1号 (少額)
随契	R7. 2. 25 ～ R7. 3. 31	R7. 4. 25	126,500	産業廃棄物（燃え殻） 収集運搬業務	随契 1号 (少額)
随契	R6. 8. 14 ～ R7. 3. 31	R6. 9. 26	65,560	産業廃棄物（感染性）収集・ 運搬業務委託	随契 1号 (少額)
随契	R6. 8. 14 ～ R7. 3. 31	R6. 9. 26	19,250	産業廃棄物（感染性） 処分業務委託	随契 1号 (少額)
随契	R6. 7. 19 ～ R6. 8. 30	R6. 9. 13	84,260	養豚廃水処理施設 間欠曝気システム製作委託	随契 2号 (不適)
随契	R6. 12. 17 ～ R7. 2. 28	R7. 3. 17	246,510	養豚廃水処理施設 養豚廃水処理施バイオマス 増殖装置製作委託	随契 2号 (不適)
随契	R6. 11. 1 ～ R7. 2. 28	R7. 1. 28	741,400	敷地南側及び北東緑地帯 危険木伐採業務委託	随契 1号 (少額)
随契	R6. 4. 1 ～ R7. 3. 31	R6. 5. 23	82,720	実験器具の洗浄、清掃 及び実験補助業務	随契 1号 (少額)
		R6. 6. 24	82,720		
		R6. 7. 22	82,720		
		R6. 8. 20	82,720		
		R6. 9. 25	82,720		
		R6. 10. 22	82,720		
		R6. 11. 25	82,720		
		R6. 12. 20	82,720		
		R7. 1. 24	82,720		
		R7. 2. 21	82,720		
		R7. 3. 19	82,720		
		R7. 4. 21	82,720		
		小 計	992,640		
随契	R6. 10. 9 ～ R7. 3. 31	R7. 1. 20	75,900	産業廃棄物（保冷库） 収集運搬処分業務委託	随契 1号 (少額)
随契	R6. 4. 26 ～ R7. 3. 21	R6. 5. 14	1,300,572	豚受精卵の大量凍結技術の 開発にかかる試験業務委託	随契 2号 (不適)
随契	R6. 6. 14 ～ R7. 3. 21	R6. 8. 21	2,400,671	ホルモン処置による採卵効率 向上技術の開発に関する 試験業務委託	随契 2号 (不適)
随契	R6. 11. 22 ～ R7. 3. 21	R7. 2. 12	2,398,000	豚経腔採卵用保定具 製作業務委託	随契 2号 (不適)
随契	R6. 7. 23 ～ R6. 10. 31	R6. 7. 23	1,909,965	放射冷却シート 可動装置製作委託	随契 2号 (不適)
随契	R6. 12. 13 ～ R7. 2. 28	R7. 2. 4	495,000	超音波噴霧装置製作委託	随契 2号 (不適)
随契	R7. 2. 14 ～ R7. 3. 21	R7. 3. 19	205,000	計測値送信蓄積装置製作委託	随契 2号 (不適)
			11,151,428		
			15,072,268		

委 託 料 に

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額		
				当初額	変更増減額	計
1	自家用電気工作物 保安管理業務	(一財)中部電気保安協会 掛川営業所	円 399,960	円 399,960	円	円 399,960
2	夜間警備業務	セコム (株)	363,000	363,000		363,000
3	清掃等業務	東海ビル管理 (株)	422,180	422,180		422,180
4	電話設備 保守点検業務	三興電機 (株)	125,400	125,400		125,400
5	合併処理施設 管理業務	静岡県西部環境整備 (株)	660,000	660,000		660,000
6	家畜排水処理施設 管理業務	静岡県西部環境整備 (株)	253,000	253,000		253,000
7	冷凍空調熱源設備機器 保守管理業務	東海サーモ エンジニアリング (株)	1,100,000	1,078,000		1,078,000
8	消防設備等 保守点検業務	セルコ (株) 掛川営業所	759,412	455,400		455,400
9	産業廃棄物収集・運搬 及び処分業務	(株)リサイクルクリーン	265,650	238,700		238,700
10	産業廃棄物 (廃蛍光管類・廃乾電池類) 収集・運搬及び処分委託	(株) ホクセイ	47,080	47,080		47,080
11	実験器具洗浄及び 実験補助業務	(株) レンティック中部	1,013,760	992,640		992,640
12	豚受精卵の大量凍結技術の 開発にかかる試験業務委託	(公財) 実中研	1,300,572	1,300,572		1,300,572
13	ホルモン処置による採卵効率 向上技術の開発に関する 試験業務委託	(学法) 麻布獣医学園	2,400,671	2,400,671		2,400,671
合計			9,110,685	8,736,603	0	8,736,603

関 する 調

(令和7年度)
(令和7年5月31日現在)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
随契	R7. 4. 1 ～ R8. 3. 31	R7. 4. 28	円 399, 960	自家用電気工作物の 保安管理業務	随契 2号 (不適)
随契	R7. 4. 1 ～ R8. 3. 31	R7. 5. 29	30, 250	夜間等の機械警備及び 火災報知器監視業務	随契 2号 (不適)
			小 計 30, 250		
随契	R7. 4. 1 ～ R8. 3. 31	R7. 5. 23	35, 180	庁舎管理棟及びその周辺 の清掃等業務	随契 1号 (少額)
			小 計 35, 180		
随契	R7. 4. 1 ～ R8. 3. 31	R7. 5. 14	31, 350	電話設備の保守点検業務	随契 1号 (少額)
			小 計 31, 350		
随契	R7. 4. 1 ～ R8. 3. 31			合併処理施設(浄化槽) の保守管理業務	随契 1号 (少額)
随契	R7. 4. 1 ～ R8. 3. 31			家畜排水処理施設の保守 管理業務	随契 1号 (少額)
指名	R7. 4. 1 ～ R8. 3. 31			センター内冷凍空調設備、 熱源設備機器(ボイラー)の 保守点検業務	指名
随契	R7. 4. 1 ～ R8. 3. 31			消防設備の保守点検業務	随契 1号 (少額)
随契	R7. 4. 1 ～ R8. 3. 31	R7. 5. 14	34, 100	産業廃棄物 収集運搬処分業務	随契 1号 (少額)
			小 計 34, 100		
随契	R7. 5. 1 ～ R8. 3. 31			産業廃棄物(燃え殻) 収集運搬業務	随契 1号 (少額)
随契	R7. 4. 1 ～ R8. 3. 31	R7. 5. 26	82, 720	実験器具の洗浄、清掃 及び実験補助業務	随契 1号 (少額)
			小 計 82, 720		
随契	R7. 4. 7 ～ R8. 3. 31	R7. 4. 11	1, 300, 572	豚受精卵の大量凍結技術の 開発にかかる試験業務委託	随契 2号 (不適)
			1, 914, 132		

負担金支出調

(令和6年度)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	アーク溶接等特別教育受講料	(株)掛川自動車学校	アーク溶接等特別教育募集案内	アーク溶接等特別教育の受講	24,000	R6.5.15
2	菊川市危険物安全協会会費	菊川市危険物安全協会	菊川市危険物安全協会会則	危険物の取扱及び管理の向上による災害の防止	2,000	R6.5.23
3	第71回日本実験動物学会総会参加費	公益財団法人日本実験動物学会	日本実験動物学会総会開催案内	日本実験動物学会総会へ参加	29,000	R6.5.28
4	菊川地区安全運転管理者講習会受講料	(一社)静岡県安全運転管理協会	道路交通法第108条の2第1項	安全運転管理者講習会の受講	4,500	R6.6.4
5	菊川地区安全運転管理協会年会費	菊川地区安全運転管理協会	菊川地区安全運転管理協会会則	安全運転管理	28,000	R6.7.5
6	静岡県養豚協会会費	静岡県養豚協会	静岡県養豚協会通常総会決議	種豚の登録、子豚の登記、繁殖登録及び産肉登録	15,000	R6.7.23
7	日本水処理生物学会第60回大会参加費	日本水処理生物学会	日本水処理生物学会第60回大会案内	日本水処理生物学会第60回大会への参加	7,000	R6.8.14
8	日本家禽学会2024秋季大会参加費	日本家禽学会	日本家禽学会2024年度秋季大会開催案内	日本家禽学会2024年度秋季大会への参加	3,000	R6.9.6
9	小型車両系(整地等3t未満)特別教育受講料	(株)掛川自動車学校	小型車両系(整地等3t未満)特別教育募集案内	小型車両系(整地等3t未満)特別教育の受講	23,000	R6.9.13
10	日本先進医工学プラ研究会参加費	日本先進医工学研究会	日本先進医工学研究会案内	日本先進医工学研究会へ参加	21,000	R6.11.14
11	第59回日本水環境学会年会参加負担金	公益社団法人日本水環境学会	第59回日本水環境学会年会開催案内	第59回日本水環境学会年会へ参加	6,500	R6.12.26
12	フォークリフト特別教育受講料	(株)掛川自動車学校	フォークリフト特別講習受講案内	フォークリフト特別講教育の受講	19,000	R6.1.20
13	刈払機取扱作業従事者安全衛生教育受講料	一般社団法人建設不動産総合研修センター	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育実施要領	刈払機取扱作業従事者安全衛生教育の受講	26,400	R6.1.20
14	日本家禽学会2025年度春季大会参加費	日本家禽学会	日本家禽学会2025年度春季大会開催案内	日本家禽学会2025年度春季大会への参加	1,500	R7.1.30
15	小型車両系(整地等3t未満)特別教育受講料	キャタピラー教習所(株)静岡教習センター	小型車両系(整地等3t未満)特別教育募集案内	小型車両系(整地等3t未満)特別教育の受講	17,900	R7.1.31
16	ダイオキシン類作業従事者特別教育受講料	一般社団法人建設不動産総合研修センター	労働安全衛生法第59条第3項	ダイオキシン類作業従事者特別教育の受講	7,700	R7.2.5
17	人間ドック事業参加負担金	地方職員共済組合静岡県支部	令和6年度人間ドック県費負担実施要領	人間ドックの受診	7,000	R7.2.7
18	国産純粋種豚改良協議会令和6年度会費	国産純粋種豚改良協議会	国産純粋種豚改良協議会規約	国産純粋種豚改良協議会の活動参加	50,000	R7.2.7
19	豚の胚移植関連技術個別研修受講料	独立行政法人家畜改良センター	独立行政法人家畜改良センター個別研修実施要領	豚の胚移植関連技術個別研修の受講	31,289	R7.2.26
20	第122回日本養豚学会大会参加費	日本養豚学会	第122回日本養豚学会大会開催案内	第122回日本養豚学会大会へ参加	3,000	R7.3.14
	計	20件			326,789	

負 担 金 支 出 調

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	菊川市危険物 安全協会会費	菊川市危険 物安全協会	菊川市危険物安全協 会会則	危険物の取扱及び管理 の向上による災害の防止	2,000	R7.5.15
2	第72回日本実験 動物学会総会参 加費	公益財団法人日本実験 動物学会	日本実験動物学会総 会開催案内	日本実験動物学会総会 へ参加	43,000	R7.5.20
	計	2件			45,000	

建 築 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額		
					当 初 額	変更増減額	計
1	資産経営費	管理研究棟 個別空調設置工事	菊川市 西方2780	2,497,000	2,420,000	0	2,420,000
2	資産経営費	系統造成豚舎 (8 号豚舎) 柵修繕工事	菊川市 西方2780	2,497,000	2,491,500	0	2,491,500
3	資産経営費	家畜排水処理施設 曝気槽安全蓋設置工事	菊川市 西方2780	1,716,000	1,710,500	0	1,710,500
		小計	3 件	6,710,000	6,622,000	0	6,622,000
7	農業費	自動給餌システム修繕工事	菊川市 西方2780	15,598,000	15,596,570	0	15,596,570
8	農業費	系統造成分娩育成豚舎 (6 号豚舎) 給水配管更新工事	菊川市 西方2780	880,000	880,000	0	880,000
9	農業費	ミニブタ舎 温水配管ヘッダー更新工事	菊川市 西方2780	638,000	605,000		605,000
		小計	3 件	17,116,000	17,081,570	0	17,081,570
		合計	6 件	23,826,000	23,703,570	0	23,703,570

令和7年度該当なし

(令和6年度)

事 調

契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
随契	東海サーモエンジニアリング(株)	R6.12.2 R7.2.28	2,420,000	管理研究棟 個別空調設置工事	済	令達 R6.11.27 支払 R7.3.28 随契1号(少額)
随契	(株)牧野組	R6.12.20 R7.3.19	2,491,500	系統造成豚舎 (8号豚舎) 柵修繕工事	済	令達 R6.11.25 支払 R7.4.4 随契1号(少額)
随契	(株)牧野組	R7.1.29 R7.3.21	1,710,500	家畜排水処理施設 曝気槽安全蓋設置工事	済	令達 R7.1.8 支払 R7.4.4 随契1号(少額)
			6,622,000			
随契	イクナム研設(株)	R6.11.26 R7.3.13	15,596,570	自動給餌システム修繕工事	済	令達 R6.11.13 支払 R7.4.4 一般
随契	(株)牧野組	R6.12.18 R7.3.7	880,000	系統造成分娩育成豚舎 (6号豚舎) 給水配管更新工事	済	令達 R6.11.13 支払 R7.3.31 随契1号(少額)
一般	東海サーモエンジニアリング(株)	R7.1.29 R7.3.21	605,000	ミニブタ舎 温水配管ヘッダー更新工事	済	令達 R6.12.13 支払 R7.4.4 随契1号(少額)
			17,081,570			
			23,703,570			

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区 分	令和6年 3月31日現在		増		減		令和7年 3月31日現在		摘 要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量 又は 面積	台 帳 価 格	数量 又は 面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,647,952						千円 1,646,316	
土地	m ² 90,149.90	1,392,558					m ² 90,149.90	1,392,558	
立木竹	本 37	1,069					本 37	1,069	
建物	m ² <u>8,862.70</u> 9,807.02	199,040				16,179	m ² <u>8,862.70</u> 9,807.02	182,861	
工作物	個 88	55,056	1	22,462	10	7,690	個 79	69,828	
特許権等	件 2	229			2	229	件 0	0	
普通財産		47,466						48,160	
土地	m ² 3,076.52	47,466					m ² 3,076.52	47,466	
建物	m ² <u>208.68</u> 198.72	—					m ² <u>208.68</u> 198.72	—	
特許権等	件 0	0	4	811			件 4	811	
公有財産に 準ずるもの		109						109	
電話加入権	件 5	109					件 5	109	
上記の財産 に属さない もの		465						0	
準特許権等	件 2	465		117	2	582	件 0	0	

令和7年度中増減なし

借地借家等調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏名	用 途
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土地	道路 敷地	菊川市 西方 3783-7	道路	道路	m ² 1.44	免除	免除	令和 6.4.1 ～ 令和 9.3.31	菊川市長	案内 看板
2	土地	道路 敷地	菊川市 西方 2839-8	道路	道路	1.44	免除	免除	令和 6.4.1 ～ 令和 9.3.31	菊川市長	案内 看板
3	土地	水路 敷地	菊川市 西方 2780	水路	水路	33.29	免除	免除	令和 7.4.1 ～ 令和 10.3.31	菊川市長	進入路
4	土地	水路 敷地	菊川市 西方 2780	水路	水路	10.26	免除	免除	令和 7.4.1 ～ 令和 10.3.31	菊川市長	進入路
	計					46.43	0	0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年5月31現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	(契約額の年度別内訳)					
				令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
債務負担 行為		(契約日)		円	円	円	円	円	円
		(契約日)							
長期継続 契約	電算機器等賃貸借契約	電算機器の賃貸借 (契約日) 令和元年7月1日	9,906,600	2,085,600	2,085,600	2,085,600	2,085,600	521,400	
	電子複写機賃貸借契約	電子複写機賃貸借 (契約日) 令和2年4月1日	1,745,700	349,140	349,140	349,140	349,140	349,140	
	電算機器等賃貸借契約	電算機器の賃貸借 (契約日) 令和6年7月1日	10,758,000					896,500	2,151,260
	電子複写機賃貸借契約	電子複写機賃貸借 (契約日) 令和7年4月1日	1,539,120						343,800

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は 面 積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は使 用許可期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使 用許可 目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	行政 財産	土地	菊川市 西方 2780		宅地	電柱7本 支線1条	円 1,500 1,500	円 10,500 1,500	自令和3年 4月1日 至令和8年 3月31日	西日本電信 電話(株)静岡 支店長	電柱敷
2	"	"	"		宅地	電柱2本 支線3条	1,500 1,500	3,000 4,500	自令和4年 4月1日 至令和9年 3月31日	中部電力パワ ーグリッド(株) 掛川営業所長	電柱敷
3	"	"	"		宅地	カーポート1本	免除	免除	自令和7年 4月1日 至令和12年 3月31日	菊川市長	工作物 敷地
4	"	"	" 西方 2863-2		宅地 雑種 地	支線2条 電柱2本 支線1条	1,500 1,500	3,000 1,500	自令和7年 4月1日 至令和12年 3月31日	中部電力パワ ーグリッド(株) 掛川営業所長	電柱敷
	合計							27,000			

普通財産・借受財産等貸付調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は 面 積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は使 用許可期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使 用許可 目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	普通 財産	土地	菊川市 西方 2770-3		宅地	電柱1本 支線3条	1,500 1,500	1,500 4,500	自令和5年 4月1日 至令和8年 3月31日	中部電力パワ ーグリッド(株) 掛川営業所長	電柱敷
2	"	"	"		宅地	支線1条	1,500	1,500	自令和6年 4月1日 至令和9年 3月31日	中部電力パワ ーグリッド(株) 掛川営業所長	電柱敷
3	"	"	"		宅地	電柱2本 支線1条	1,500 1,500	3,000 1,500	自令和7年 4月1日 至令和10年 3月31日	西日本電信電 話(株)静岡 支店長	電柱敷
	合計							12,000			

職員公舎管理状況調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	所在地	建築 年月	構 造	管理戸 (室)数A	入居戸 (室)数B	Bの内他事務所 職員入居戸(室)数	空屋戸(室) 数A－B	摘要
1	菊川市 西方2770-3	S 62 ・ 4	木造平屋 アスファルト シングル葺	3	1	0	2	空家年月日 H22. 6. 1～ R5. 5. 1～
	計			3	1	0	2	

備品・図書調

1 / 2 頁

(令和 6年度)

所属 0000105445 経済産業部 畜産技術研究所中小家畜研究センター

区 分	令和 6年 3月31日 現在	増		減		令和 7年 3月31日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
01-02 台類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-03 いす類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
01-04 収納保管庫類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-06 印字器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-10 印判類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
01-13 厨房器具類	3	(0) 0	0	(0) 1	0	2
01-14 冷暖房器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-99 その他の庁用器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
02-01 情報処理機器類	15	(0) 0	0	(0) 0	0	15
03-01 撮影機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
03-02 観察・観測用光学機器類	32	(0) 0	0	(0) 0	0	32
03-03 視覚用再生等機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
03-99 その他の写真光学視覚機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-01 診療・診断用機器類	22	(0) 0	0	(0) 0	0	22
04-02 衛生検査用機器類	5	(0) 1	498, 773	(0) 0	0	6
04-06 獣医用機器類	31	(0) 1	554, 400	(0) 1	0	31
04-07 防疫機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-99 その他の医療衛生機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
05-01 強度（物性）試験計測機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3

備品・図書調

2 / 2 頁

(令和 6年度)

所属 0000105445 経済産業部 畜産技術研究所中小家畜研究センター

区 分	令和 6年 3月31日 現在	増		減		令和 7年 3月31日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
05-02 波動・熱試験計測機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-03 電気試験計測機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
05-04 分析化学機器類	60	(0) 0	0	(0) 0	0	60
05-05 生物化学機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
05-06 環境化学機器類	11	(0) 0	0	(0) 0	0	11
05-08 度量衡測定機器類	19	(0) 0	0	(0) 0	0	19
05-09 天体気象観測機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
05-99 その他の試験計測機器類	90	(0) 0	0	(0) 0	0	90
06-01 建設鉱山用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-02 金属加工用機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
06-04 電気電子機器類	14	(0) 0	0	(0) 0	0	14
06-99 その他の諸機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
07-01 農産用機器類	16	(0) 0	0	(0) 0	0	16
07-03 畜産用機器類	67	(0) 3	0	(0) 0	0	70
08-01 車両類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
09-01 標本美術品	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
10-05 生物物理化学用器具類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
50-01 図書	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
計	467	(0) 5	1, 053, 173	(0) 2	0	470

備品・図書調

1 / 2 頁

(令和 7年度)

所属 0000105445 経済産業部 畜産技術研究所中小家畜研究センター

区 分	令和 7年 3月31日 現在	増		減		令和 7年 5月31日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
01-02 台類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-03 いす類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
01-04 収納保管庫類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-06 印字器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-10 印判類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
01-13 厨房器具類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-14 冷暖房器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-99 その他の庁用器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
02-01 情報処理機器類	15	(0) 0	0	(0) 6	0	9
03-01 撮影機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
03-02 観察・観測用光学機器類	32	(0) 0	0	(0) 0	0	32
03-03 視覚用再生等機器類	2	(0) 0	0	(0) 1	0	1
03-99 その他の写真光学視覚機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-01 診療・診断用機器類	22	(0) 0	0	(0) 0	0	22
04-02 衛生検査用機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
04-06 獣医用機器類	31	(0) 0	0	(0) 0	0	31
04-07 防疫機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-99 その他の医療衛生機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
05-01 強度（物性）試験計測機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3

備品・図書調

2 / 2 頁
(令和 7年度)

所属 0000105445 経済産業部 畜産技術研究所中小家畜研究センター

区 分	令和 7年 3月31日 現在	増		減		令和 7年 5月31日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
05-02 波動・熱試験計測機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-03 電気試験計測機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
05-04 分析化学機器類	60	(0) 0	0	(0) 0	0	60
05-05 生物化学機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
05-06 環境化学機器類	11	(0) 0	0	(0) 0	0	11
05-08 度量衡測定機器類	19	(0) 0	0	(0) 0	0	19
05-09 天体気象観測機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
05-99 その他の試験計測機器類	90	(0) 0	0	(0) 0	0	90
06-01 建設鉱山用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-02 金属加工用機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
06-04 電気電子機器類	14	(0) 0	0	(0) 0	0	14
06-99 その他の諸機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
07-01 農産用機器類	16	(0) 0	0	(0) 0	0	16
07-03 畜産用機器類	70	(0) 0	0	(0) 0	0	70
08-01 車両類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
09-01 標本美術品	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
10-05 生物物理化学用器具類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
50-01 図書	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
計	470	(0) 0	0	(0) 7	0	463

主 要 備 品 調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利用状況	購入 年月	購入金額
	大・中	小				
1	5-4	分光分析機器	近赤外線分光分析計 ファイバースコープ付き	豚枝肉の非破壊成分調査 (20 日)	H10. 3	円 17,797,500
2	5-4	クロマトグラフ	高速液体クロマト 3タイプ 検出機能	アミノ酸等不揮発性物質測定 (30 日)	S62. 10	11,040,000
3	5-5	アミノ酸化学機器	アミノ酸分析計	豚肉の旨み成分の分析(50 日)	H4. 3	10,197,000
4	5-5	その他の生物化学機器	DNA シーケンサー	DNA 塩基配列等の解析 (120 日)	H17. 5	9,922,500
5	3-2	顕微鏡	走査型電子顕微鏡 倍率 35～200,000	精子、卵子、組織構造観察 (30 日)	S63. 2	8,537,000
6	5-4	分光分析機器	原子吸光分光光度計分析条件設定記憶可能	飼料等の無機物質の測定 (30 日)	S62. 10	8,400,000
7	5-4	分光分析機器	原子吸光分析装置 偏光ゼーマン原子吸光度計	堆肥、汚水の無機塩類の測定 (50 日)	H7. 2	8,352,270
8	7-3	環境整備用機器	鶏糞発酵処理装置 内容量 5～6 立方メートル	鶏糞の発酵処理 (120 日)	S62. 3	8,320,000
9	7-3	その他の畜産用機器	長期飼育アイソレータ 特注 (製作業務委託成果品)	無菌動物の飼育 (180 日)	R4. 4	7,073,000
10	3-1	その他の撮影機器	スキャニングスコープ P スコープ、F スコープ 付き	豚生体の産肉性調査 (60 日)	H10. 3	6,726,300
11	7-3	その他の畜産用機器	輸送アイソレータ 特注 (製作業務委託成果品)	無菌動物の輸送移動 (30 日)	R4. 4	6,688,000
12	5-4	クロマトグラフ	イオンクロマト装置 1 流 路 2 カラムサブレッサー方式	汚水のイオン分析 (30 日)	H6. 10	6,077,000
13	3-2	顕微鏡	マニピュレータ顕微鏡	豚クローン胚作出 (30 日)	H14. 9	5,829,516
14	3-2	顕微鏡	マニピュレータ顕微鏡	豚クローン胚作出 (30 日)	H16. 12	5,397,000
15	5-4	クロマトグラフ	高速イオンクロマトグラフ 4タイプ 検出機能	陰イオン測定 (50 日)	R5. 9	5,280,000
16	5-5	その他の生物化学機器	リアルタイム PCR システム	迅速な DNA 鑑定 (60 日)	H18. 6	4,706,100
17	7-3	その他の畜産用機器	3 ヶ月齢飼育アイソレータ 特注 (製作業務委託成果品)	無菌動物の飼育 (180 日)	H31. 3	4,492,800
18	5-4	クロマトグラフ	ガスクロマトグラフシステム 2タイプ 検出機能	臭気分析 (90 日)	H5. 3	4,490,800
19	5-99	試験実験用付属機器	発酵攪拌装置スポット脱臭装置 1.6L/分	アンモニア発生量の抑制 (50 日)	H13. 3	4,462,500
20	5-4	クロマトグラフ	ガスクロマトグラフシステム FID・オートサンプリング付き	脂肪酸の測定 (60 日)	H25. 2	4,176,900

(令和6年度)

動物管理状況調

品 名	区分 品種	令和6年3月31日 現在 頭羽数	増				減					頭羽数 差 引	摘要
			分類換	購入	管理換 その他	計	分類換 売 却		死亡	管理換 その他	計		
							出生	購入					
種 豚	ランドレース	頭 11	頭 5	頭 0	頭 0	頭 5	頭 2	頭 0	頭 0	頭 1	頭 3	頭 13	♂ 7 ♀ 6
	大ヨークシャー	29	18	0	0	18	14	0	0	2	16	31	♂ 8 ♀ 23
	F1(雑種)	54	15	0	0	15	16	0	0	6	22	47	♂ 15 ♀ 32
	デュロック	62	28	0	0	28	28	0	0	4	32	58	♂ 19 ♀ 39
	金華豚	18	3	0	0	3	1	0	0	2	3	18	♂ 9 ♀ 9
	その他	83	52	0	0	52	5	0	0	50	55	80	♂ 29 ♀ 51
	計	257	121	0	0	121	66	0	0	65	131	247	♂ 87 ♀ 160
鶏	在来鶏	羽 566	羽 1,065	羽 0	羽 0	羽 1,065	羽 0	羽 0	羽 93	羽 548	羽 641	羽 990	♂ 98 ♀ 892
	計	566	1,065	0	0	1,065	0	0	93	548	641	990	♂ 98 ♀ 892

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

動物管理状況調

品名	区分 品種	令和7年3月31日 現在 頭羽数	増				減					頭羽数 差 引	摘要
			分類換	購入	管理換 その他	計	分類換 売 却		死亡	管理換 その他	計		
							出生	購入					
種豚	ラントレース	頭 13	頭 0	頭 0	頭 0	頭 0	頭 1	頭 0	頭 0	頭 2	頭 3	頭 10	♂ 5 ♀ 5
	大ヨークシャー	31	0	0	0	0	2	0	0	0	2	29	♂ 6 ♀ 23
	F1(雑種)	47	6	0	0	6	3	0	0	0	3	50	♂ 16 ♀ 34
	デュロック	58	22	0	0	22	4	0	0	3	7	73	♂ 27 ♀ 46
	金華豚	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	♂ 9 ♀ 9
	その他	80	8	0	0	8	0	0	0	4	4	84	♂ 29 ♀ 55
	計	247	36	0	0	36	10	0	0	9	19	264	♂ 92 ♀ 172
鶏	在来鶏	羽 990	羽 40	羽 0	羽 0	羽 40	羽 0	羽 0	羽 24	羽 10	羽 34	羽 996	♂ 98 ♀ 898
	計	990	40	0	0	40	0	0	24	10	34	996	♂ 98 ♀ 898

生産物受払調

区分	豚				豚精液				鶏卵			
	令和5年度 a	令和6年度 b	令和7年度 5月31日現在	差 b-a	令和5年度 a	令和6年度 b	令和7年度 5月31日現在	差 b-a	令和5年度 a	令和6年度 b	令和7年度 5月31日現在	差 b-a
種豚・種鶏(頭・羽)(ア)	168	160	172	-8	89	87	92	-2	495	892	898	397
前年度繰越高	412	514	348	102	0	0	0	0	3,427	1,753	3,482	-1,674
本年度生産高(イ)	1,128	837	210	-291	31,100	10,100	1,600	-21,000	133,645	116,818	31,898	-16,827
計	1,540	1,351	558	-189	31,100	10,100	1,600	-21,000	137,072	118,571	35,380	-18,501
単位数量 (イ/ア)	6.71	5.23	1.22	-1.48	349.44	116.09	17.39	-233.35	269.99	130.96	35.52	-139.03
同前年比 (%) (b-a)/a × 100				-22.1				-66.8				-51.5
売払数量	796	782	83	-14	31,100	10,100	1,600	-21,000	16,125	17,535	3,540	1,410
売払金額	23,561,561	24,700,639	3,077,050	1,139,078	1,088,500	353,500	56,000	-735,000	147,620	130,230	41,430	-17,390
非売品 数量	230	221	53	-9	0	0	0	0	145	2,114	440	1,969
分類換 管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	119,049	95,440	28,519	-23,609
計	1,026	1,003	136	-23	31,100	10,100	1,600	-21,000	135,319	115,089	32,499	-20,230
残高又は繰越数量	514	348	422	-166	0	0	0	0	1,753	3,482	2,881	1,729
摘 要			R7.5調定 R7.6払出額 80,300 R7.5払出 R7.6調定額 714,139				R7.5調定 R7.6払出額 3,500					
当年度調定額	23,561,561	24,700,639	2,443,211		1,088,500	353,500	59,500		147,620	130,230	41,430	

(令和7年5月31日現在)

品名 (単位)		種卵				鶏				計			
		令和5年度 a	令和6年度 b	令和7年度 5月31日現在	差 b-a	令和5年度 a	令和6年度 b	令和7年度 5月31日現在	差 b-a	令和5年度 a	令和6年度 b	令和7年度 5月31日現在	差 b-a
区分	種豚・種鶏(頭・羽)(ア)		495	892	898	397	566	990	996	424			
	前年度繰越高		0	0	0	0	0	631	58	631			
	本年度生産高(イ)		5,160	5,180	840	20	3,985	4,785	1,079	800			
	計		5,160	5,180	840	20	3,985	5,416	1,137	1,431			
	単位数量(イ/ア)		10.42	5.81	0.94	-4.61	7.04	4.83	1.08	-2.21			
払高	(b-a)/a×100					-44.2				-31.4			
	売払数量		5,160	5,180	840	20	2,570	4,075	675	1,505			
	売払金額		77,400	77,700	12,600	300	549,980	872,050	144,450	322,070	25,425,061	26,134,119	3,331,530
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	770	1,255	41	485			
	管理換 その他		0	0	0	0	14	28	22	14			
計		5,160	5,180	840	20	3,354	5,358	738	2,004				
残高又は繰越数量		0	0	0	0	631	58	399	-573				
摘 要													
				R7.5調定 R7.6払出額 7,500				R7.5調定 R7.6払出額 64,200				R7.5調定 R7.6払出額 155,500	
				R7.5払出 R7.6調定額 600								R7.5払出 R7.6調定額 714,739	
当年度調定額		77,400	77,700	19,500		549,980	872,050	208,650		25,425,061	26,134,119	2,772,291	